



お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、91ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM WebSphere Partner Gateway Enterprise Edition (製品番号 5724-L69) バージョン 6.2、リリース 0、モディフィケーション 0、および Advanced Edition (製品番号 5724-L68) バージョン 6.2、リリース 0、モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： WebSphere® IBM WebSphere Partner Gateway Enterprise and Advanced Editions
Version 6.2
Troubleshooting Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2010.4

© Copyright International Business Machines Corporation 2007, 2008.

目次

第 1 章	トラブルシューティングの概要	1
第 2 章	WebSphere Partner Gateway のトラブルシューティングのチェックリスト	3
第 3 章	WebSphere Partner Gateway のインストールのトラブルシューティング	5
	再インストールに関する問題の解決	5
	配布モードでの WebSphere Partner Gateway の再インストール	5
	Database Loader のインストールのトラブルシューティング	6
	WebSphere Partner Gateway を Windows サービスとして始動しているときのログオン失敗エラーのトラブルシューティング	6
	満たされないリンク・エラー	6
	WebSphere Partner Gateway の文書処理に関する問題の解決	7
	AIX プラットフォームでのインストール・メモリー・ダンプの診断	7
	WebSphere Partner Gateway のアンインストール中にログが生成されない場合の問題の診断	8
第 4 章	WebSphere Partner Gateway のマイグレーションのトラブルシューティング	9
	スマート・マイグレーションの失敗の解決	9
	マイグレーション後の文書処理の失敗のトラブルシューティング	9
	WebSphere Partner Gateway 6.2 にマイグレーションした後、JMS 統合が失敗する	10
	サンプルをインポートするときのエラー	10
第 5 章	トランスポート・プロトコルに関する問題 (送受信) のトラブルシューティング	11
	SFTP の問題の解決	11
	SFTP のトレースを使用可能にする方法	11
	WebSphere Application Server での SFTP レシーバー宛先の作成の失敗に対するトラブルシューティング	11
	ユーザー・レベル・ロックを備えた FTP スクリプト記述宛先	12
第 6 章	アーカイバーの問題のトラブルシューティング	13
	アーカイバー・エクスポート障害の診断	13
	アーカイバー・データのリストア障害の解決	13

アーカイブからのコンソール・ベース・リストアのサポート	14	
ヒントおよび予備手段	15	
第 7 章	WebSphere Transformation Extender (WTX) の統合に関する問題のトラブルシューティング	17
第 8 章	実行時エラー、検証エラー、および例外のトラブルシューティング	19
	エラー・イベントの解決	19
	BCG103201 - ハブ所有者状態エンジン・エラー	19
	BCG103203 - レシーバー処理エラー	19
	BCG103205 - レシーバー・エラー	19
	BCG210031 - 文書を否認防止できません	20
	BCG210033 - メッセージの格納に失敗しました	20
	BCG240701 - アクティビティ・ロギング・エラー	20
	BCG410020 - 「メッセージを生成するための情報が足りません」エラー	21
	BCG700002 - アーカイバーでタスク {0} のエラーが発生しました。実行時間 {1} エラーの原因 {2}	21
	BCG210022 - プロセス・トランザクションのロールバック	22
	BCG240415 - MDN に署名されていません	22
	BCG210001 - チャネル検査エラーおよび BCGEDIEV0056 - 交換テーブル検索の警告	23
	BCG210013 - 接続が完全に構成されていません	24
	BCGEDICM0001 - 予期しない例外が発生しました	24
	コンソールでの 500 エラーの修正	25
	ORA-00988 エラー	26
	エラー - TCPC0003E および CHF0029E	26
	WebSphere MQ メッセージの修正	27
	MQJMS2013 エラー	27
	SQL エラーの修正	28
	SQLCODE -1225 エラー	28
	SQLCODE -289 エラー	28
	SQLCODE -444 エラー	28
	BCGMAS データベースでの SQL 0964C (トランザクション・ログ・フル) エラー	29
	reprocessDbLoggingErrors.bat での java.lang.NoClassDefFoundError	29
	Solaris プラットフォーム上で再配置スクリプトによって生成される構文エラーの解決	29
	検証エラーと例外の解決	30
	生成された 0A1 にデータ検証エラーがある	30
	FTP スクリプト記述レシーバーの例外	30
	ユーザー出口クラスの ClassNotFoundException	31

イベント 210031 の解決	31	2 GB より大きい文書のファイル・サイズのレポ ート	44
スレッド停止警告の修正	32	ヒープ・サイズの増加	44
文書マネージャーの停止の例外	32	複数ルーターを使用している場合の重複文書配信 の回避	44
java.security.InvalidKeyException: 正しくないキ ー・サイズまたはデフォルト・パラメーター	33	必要な *.rpt ファイルが作成されないときの問題 の処理	44
WebSphere Partner Gateway がマップからユーザ ー出口を呼び出そうとしたときに ClassNotFoundException が発生する	33	レシーバーが異常終了した場合の文書処理に関す る問題の解決	45
暗号化された文書の送信中に生成される構文解析エ ラーの解決	33	複数言語のデータの照合	45
証明書の使用に関するエラーの処理	34	IBM サービス・ログのトラブルシューティング	46
証明書チェンニング・エラー	34	レシーバー・タイムアウト設定の増加	46
取り消し状況の失敗	35	サーバーの再始動後にコンソールが開始しない	47
無視しても安全なメッセージ	35	レシーバーが構成ファイルの読み取りに失敗した	47
WebSphere Partner Gateway ハブ・インストーラ ーのエラー・メッセージの解決	35	アラート通知を受信するユーザーの構成	47
bcgHubInstall.log に記録される DB パスワード必 須エラー	36	データベースへのログ記録に失敗したイベントおよ びビジネス文書の再処理	48
第 9 章 WebSphere Partner Gateway		WebSphere Partner Gateway が javacore を生成した 場合の WebSphere Application Server 内での JIT の 無効化	48
管理のトラブルシューティング 37		カスタム・トランスポート・タイプの定義	49
長い処理時間を回避するためのヒント	37	C: 以外のドライブ上での WebSphere Partner Gateway の作成	49
暗号化された大容量文書の処理時間の長期化防止	37	SSL トランザクションに関する問題のトラブルシュ ーティング	49
暗号化された大容量 AS 文書の処理時間の長期化 防止	37	SSL トランザクションを実行するための CRL の ダウンロード	49
メモリー不足エラーの回避	37	SSL 接続のためのテスト・パートナー接続の修正	50
文書マネージャーのパフォーマンスの向上	38	証明書が受信されないことによる SSL ハンドシ ェークの失敗	50
文書マネージャーのメモリー構成を使用可能にす る	38	証明書取り消しリスト (CRL) が無効であること が原因で SSL 接続が失敗する	51
文書マネージャーのワークロードを使用可能にす る	38	SSL 接続でテスト参加者接続が機能しない	52
文書マネージャーの高可用性構成のために必要な TCP 設定	38	WebSphere Process Server 内の JMS エクスポート/ インポートでのデータ・バインド	52
データベースに関する問題のトラブルシューティン グ	39	固定ワークフロー・ハンドラーの Content-Types 属 性の構成	53
DB2 エージェント用の十分な仮想メモリーの確保	39	取り消しチェックの使用および CRLDP サポートの 使用	54
データベース照会効率の最適化	39	文書ボリューム・レポートの検索に関する問題の解 決	54
Oracle 9i リリース 2 の使用時に文書が処理され ない	40	CA 証明書の有効期限切れ	54
Oracle ユーザー・アカウントが、正しくない資格 情報でロックされる	40	AS トランザクションの MDN 状況「不明」	55
Oracle の例外のトラブルシューティング	41	フィックス適用後にサーバーが始動に失敗する	55
始動中のエラー・メッセージ	41	WebSphere Application Server のショートカット・ポ ートの訂正	56
データベースが停止したときの文書処理	42	1024 より大きい解像度のディスプレイでのタブ見出 しのレンダリング	56
文書構造	42	キューとディスクがフルまたは使用不可能なとき のリカバリー処理	57
文書処理の問題のトラブルシューティング	42	HubOperator ユーザー・パスワードの変更	57
ラージ・ファイルのファイル・サイズ設定	42	鍵のサイズが 192 ビットのファイル、および 256 ビットのファイルで AES アルゴリズムを使用して いるときの例外の処理	57
文書マネージャー・サーバーへのネットワーク接 続が突然失われるか、サーバーが異常シャットダ ウンすると、文書が 2 回送信される	43		
EDI レポートが最初の 1000 レコードのみをエク スポートする	43		
WebSphere Partner Gateway によるパートナー・ トランザクションの処理の防止	43		
文書の伝送パフォーマンスの低下の防止	43		

既存のデプロイメント・マネージャーを使用して WebSphere Partner Gateway の新規インスタンスを 作成する	58
FTP スクリプト記述エラーの解決	58
ターゲットレシーバーの FTP スクリプト記述 TR0842 および FF0162 次のトランザクションの 変換の試行中に即時エラーが発生しました (TR0842 and FF0162 Immediate error attempting to translate the next transaction)	58
ユーザー・レベル・ロックを備えた FTP スクリ プト記述宛先を使用した文書の送信	59
コンソール・イベント・ビューアーでイベントが公 開されない	60
必須データ・エレメントの欠落	60
Test または Production を示す RosettaNet タグ GlobalUsageCode の処理	60
両方向 PIP RosettaNet 3A4 トランザクションの失敗 の処理	60
シンプル・モードの WebSphere Partner Gateway と WebSphere Process Server が同じマシンにインストー ルされているときの統合の問題の処理	61
WebSphere Partner Gateway 6.1.0 シンプル配布トポ ロジーで DIS インポート bat/sh がマップのアップ ロードに失敗する	62
IPv6 プロトコルを使用した FTP 接続	62
配布デプロイメントの証明書ストア構成が既存の WebSphere Application Server Network Deployment セルと競合する可能性がある	63
カスタム・ゲートウェイが記述子ファイルで属性名 URI を使用すると属性値を保存できない	64
UNIX/DB2 用 cf_edi_protocoltypeu.sh の実行エラー	64
WebSphere Partner Gateway 文書に保持されるファ イル名	64
EbMS による同期応答の構成	65
WebSphere Partner Gateway からの ROD 出力に二重 引用符が含まれる	66
第 10 章 ヒントと落とし穴	67
WebSphere Partner Gateway のデバッグ・トレースを 使用可能にする	67
現行構成のエクスポートによるサポート	67
他の WebSphere Partner Gateway データベースを使 用するようコンソール・サーバーを構成する	68
WebSphere Partner Gateway 共通ディレクトリーの変 更	68
WebSphere Partner Gateway ログイングの制御	68
MQ 製品との外部統合	69

文書が配信されずにスタックされる	69
インストールの考慮事項	69
WebSphere Partner Gateway のプロキシー・サポート	70
WebSphere Partner Gateway のタイムアウトの問題	70
インストールと構成のトラブルシューティングのヒ ント	70
リモート・マシンのデプロイメント・マネージャ ーを使用しているときにノードが統合しない	71
メッセージング・エンジンを始動できない	71
コンソールのログイン・ページを表示できない	71
WebSphere Messaging Engine の別のインスタンス のインストール時にデータベース作成オプション を選択する際の問題	71
Integrated Solutions Console を使用した WebSphere Partner Gateway レシーバー・ポートの変更	72
WebSphere Application Server 通知メッセージ	74
追加の WebSphere 製品リソース	74

第 11 章 サーバー・ログ・ファイル . . . 75

ログ・ファイル管理	75
ログイン	77
ログ・ファイルの管理	78
v6.0 から v6.2 へのログ・レベルのマッピング	79
ログの読み取りに関するヒントの概説	79
WebSphere Application Server のイベントのタイプ	80
成功イベントと失敗イベントの統合	81

第 12 章 フィックスの入手 83

サイズが 2 GB を超えるインバウンドおよびアウト バウンド ebXML メッセージの送信エラー	83
WebSphere Partner Gateway が、すぐに使用可能な PIDX をサポートしない	83
WebSphere Partner Gateway のプロパティー bcg.messagestore.threshold	83

第 13 章 知識ベースの検索 85

第 14 章 IBM ソフトウェア・サポートへ の連絡 89

特記事項	91
プログラミング・インターフェース情報	93
商標	93

索引 95

第 1 章 トラブルシューティングの概要

トラブルシューティングとは、問題を解決するための体系的な方法です。予期したとおりに動作しなかった理由を判別し、その問題の解決策を決定することが目的です。

トラブルシューティング・プロセスの最初のステップは、問題を完全に説明することです。問題を正しく理解しなければ、ユーザーも IBM® も、問題の原因をどこから探っていけばよいのか分かりません。

- 問題の典型的な症状は何か
- どのようなシナリオで問題が発生するか
- 問題が発生するのはいつか
- 問題を再現できるか

通常は、以下の質問に答えることが問題の良い説明となり、問題解決に向かう最良の方法となります。

- 問題の症状は何か
- 問題は何か

これは単純な質問に思われるかもしれませんが、問題をより明確に説明するための、焦点を絞ったいくつかの質問に分けることができます。例えば、以下のような質問です。

1. エラー・コードおよびエラー・メッセージは何か
2. どのようなシステム障害が起きているか。例えば、ループ、ハング、異常終了、性能低下、結果の誤りなどです。
3. その問題は業務に対してどのような影響があるか
4. 問題が発生する場所はどこか
5. 問題の発生源を特定することは必ずしも簡単ではありませんが、問題解決における最も重要なステップの 1 つです。報告するコンポーネントと障害のあるコンポーネントの間には、テクノロジーの層が多数存在します。ネットワーク、ディスク、およびドライバーは、問題を調査する際に考慮するコンポーネントのほんの一部にすぎません。

以下の質問は、問題の層を切り分けるのに役立ちます。これにより、問題が各種のプラットフォームまたはオペレーティング・システムに幅広く渡っているのか、それとも、特定のプラットフォームまたはオペレーティング・システムに固有のものなのかを理解できます。

現在の環境および構成はサポートされているか

ある層で問題が報告された場合、その問題は、必ずしもその層で発生しているとは限りません。このことは、理解しておくべき重要なことです。最も重要なことは、問題が発生した場所を理解し、問題が存在する環境を理解することにあります。環境、OS、構成を検証し、実行環境が、サポートされる構成であることを確認してください。

問題が発生するのはいつか

問題が発生した時刻を書き留め、ログのイベントと情報の検証を試みます。エラー・イベントは、WebSphere Partner Gateway コンソールの「イベント・ビューアー」とログ・ファイルで見つけることができます。

イベントが発生する周期性および時刻表を理解するには、以下の質問に答えてください。

- その問題は、日中または夜間の特定の時刻に発生するかどうか
- 問題の発生頻度
- 何らかのイベント・シーケンスの後で問題が報告されるか
- ソフトウェアやハードウェアのアップグレードまたはインストールなどの環境の変化によって、問題が発生するか

これらの種類の質問に答えると、問題の理解を深めることができます。

どのような条件下で問題が発生するか

問題発生時に動作していたその他のシステムとアプリケーションを知ることは、トラブルシューティングの重要なステップです。環境に関する以下のような質問は、問題の根本原因の識別に役立ちます。

- 同じタスクを実行したとき、問題が発生するか
- 何らかのイベント・シーケンスの後で問題が報告されるか
- 同じ時刻に障害が発生するアプリケーションがあるか

上記の種類の質問に答えると、問題が発生した環境を説明することができ、依存関係があれば、それらを相関させることができます。

問題を再現できるか

トラブルシューティングの視点から、問題には次の 2 つのタイプがあります。一つは、一度のみ発生し、再現できない問題、もう一つは、再現できるタイプの問題です。通常、再現できる問題は、最も簡単にデバッグして解決することが可能です。

可能であれば、テスト環境または開発環境で問題を再現してください。通常、このような環境の方が、調査時の柔軟性が増し、制御しやすくなります。

ヒント: シナリオを単純化して、疑わしいコンポーネントにまで問題を切り分けま。以下のような質問が、問題の再現に役立つ場合があります。

問題をテスト・マシンで再現できるかどうか

複数のユーザーまたはアプリケーションで、同じタイプの問題が発生しているかどうか

単一のコマンド、一連のコマンド、特定のアプリケーション、またはスタンドアロン・アプリケーションを実行することによって、問題を再現できるか

第 2 章 WebSphere Partner Gateway のトラブルシューティングのチェックリスト

ハードウェアとソフトウェアの要件、製品の修正、特定の問題、エラー・メッセージ、および診断データを理解することは、WebSphere Partner Gateway のトラブルシューティングに役立ちます。

以下の質問は、WebSphere Partner Gateway で発生した問題の原因を特定するのに役立ちます。

1. 構成は正しくサポートされているか。

ハードウェア、オペレーティング・システム、およびソフトウェアの各要件をシステムがすべて満たしているかどうかを確認するには、WebSphere Partner Gateway のシステム要件 (<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?rs=2311&uid=swg27013981>) を参照してください。

2. 最新の修正が適用されているか。ご使用の製品バージョンに関連する修正のリストについては、<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?rs=2310&uid=swg27009177> を参照してください。

3. 問題は何か

- WebSphere Partner Gateway のインストールおよび構成 - 5 ページの『第 3 章 WebSphere Partner Gateway のインストールのトラブルシューティング』を参照
- WebSphere Partner Gateway の旧バージョンからバージョン 6.2 へのマイグレーション - 9 ページの『第 4 章 WebSphere Partner Gateway のマイグレーションのトラブルシューティング』を参照
- WebSphere Partner Gateway の管理 - 37 ページの『第 9 章 WebSphere Partner Gateway 管理のトラブルシューティング』を参照
- アーカイブ - 13 ページの『第 6 章 アーカイバーの問題のトラブルシューティング』を参照
- 実行時エラーの取得 - 19 ページの『エラー・イベントの解決』を参照
- トランスポートに関する問題の検出 - 11 ページの『第 5 章 トランスポート・プロトコルに関する問題 (送受信) のトラブルシューティング』を参照
- データベース関連の問題 - 39 ページの『データベースに関する問題のトラブルシューティング』を参照
- SSL トランザクションの失敗 - 49 ページの『SSL トランザクションに関する問題のトラブルシューティング』を参照
- WebSphere Transformation Extender との統合 - 17 ページの『第 7 章 Websphere Transformation Extender (WTX) の統合に関する問題のトラブルシューティング』を参照
- 文書を処理できない - 42 ページの『文書処理の問題のトラブルシューティング』を参照

4. 何らかのエラーが表示されたか。解決策/次善策については、19 ページの『第 8 章 実行時エラー、検証エラー、および例外のトラブルシューティング』を参照してください。
5. 難しい問題の場合には、下位の制御フローおよびコンポーネント間の対話を明らかにするトレースの使用が必要になることがあります。ロギングとトレースについて詳しくは、75 ページの『第 11 章 サーバー・ログ・ファイル』を参照してください。
6. チェックリストでは解決につながらない場合は、診断データを追加して収集できます。このデータは、IBM サポートがトラブルシューティングを効果的に行い、問題の解決に役立てるために必要です。詳しくは、89 ページの『第 14 章 IBM ソフトウェア・サポートへの連絡』を参照してください。

第 3 章 WebSphere Partner Gateway のインストールのトラブルシューティング

この章では、WebSphere Partner Gateway のインストール中に発生する可能性のある問題を詳述し、それらの問題を解決するための考えられる解決策/回避策を説明します。

再インストールに関する問題の解決

WebSphere Partner Gateway の再インストールが失敗する場合は、ログ・ファイルとエラー・メッセージを確認して、問題の原因を特定してください。インストール時に保管されるログ・ファイルの正確なロケーションについては、77 ページの『インストール・ログ・ファイルのロケーション』セクションを参照してください。

再インストールに関する特定の問題を解決するヒントを以下にいくつか示します。

配布モードでの WebSphere Partner Gateway の再インストール

同じデプロイメント・マネージャーを使用して、配布モードで WebSphere Partner Gateway を再インストールしている間、WebSphere Partner Gateway サーバーは、セルに統合されません。その結果、以下の addNode.log エラーが発生します。

このセクションでは、再インストールに関連する問題を解決するためのヒントを提供します。

```
ADMU0507I: No servers found in configuration under: /opt/IBM/bcghub-distrib/wasND/Profiles/bcghubprofile/config/cells/bcgCell/nodes/bcgnode_<host name>/servers.  
ADMU2010I: Stopping all server processes for node bcgnode_< host name>.  
ADMU0024I: Deleting the old backup directory.ADMU0015I: Backing up the original cell repository.ADMU0012I: Creating Node Agent configuration for node: bcgnode_<host name>.  
ADMU0014I: Adding node bcgnode_<host name> configuration to cell;dmgrCell.  
ADMU0027E: An error occurred during federation Invalid keystore format; rolling back to original configuration.  
ADMU0211I: Error details may be seen in the file.
```

この問題は、WebSphere Application Server フィックスパックで見つかった問題に起因しています。以下の回避策を使用して、この問題を解決します。

1. デプロイメント・マネージャーを停止します。
2. trust.p12 と key.p12 を名前変更します。これらのファイルは、<dmgr_install_dir>>%wasND%Profiles%bcghub%config%cells%WebSphere Partner GatewayCell にあります。
3. デプロイメント・マネージャーを始動して、インストールを続行します。

注: デプロイメント・マネージャーを再始動すると、新しい trust.p12 ファイルと key.12 ファイルが自動的に作成されます。

また、デプロイメント・マネージャーを再インストールすることによって、この問題を解決することもできます。

Database Loader のインストールのトラブルシューティング

Database Loader のインストール中に問題が発生した場合は、システムの `temp\bcgdbloader\logs` ディレクトリーにある Database Loader ログを参照して、詳細を確認してください。問題を解決したら、Database Loader のアンインストーラーを実行して、データベースを削除します。データベースの削除が完了したら、Database Loader ウィザードを再実行します。

WebSphere Partner Gateway を Windows サービスとして始動しているときのログオン失敗エラーのトラブルシューティング

bcguser は、WebSphere Partner Gateway サービスを始動するためのデフォルトのユーザーです。bcguser は、「サービスとしてログオン」ユーザー権限を所有する必要があります。そうしないと、ユーザーが最初にアプリケーションにアクセスしたときにサービスが始動せず、ログオン失敗エラーが表示されます。

ユーザー・アカウントを使用してシステム・サービスを正常に実行するには、「サービスとしてログオン」権限を所有するようにユーザー・アカウントを手動で設定します。

この問題を解決するには、以下の 2 つのステップを実行します。

1. WebSphere Partner Gateway サービスを始動するユーザー・アカウントを構成します。このユーザー・アカウントは、この時点で「サービスとしてログオン」ユーザー権限を所有している必要があります。この作業は、WebSphere Partner Gateway のインストールを開始する前に行う必要があります。
2. WebSphere Partner Gateway のインストールが完了したら、以下のステップを実行します。
 - a. 「コントロール パネル」>「管理ツール」>「サービス」>「**WebSphere Partner Gateway サービス**」を選択します。
 - b. 「**WebSphere Partner Gateway サービス**」を右クリックして、「プロパティ」を選択します。
 - c. 「ログオン」タブを選択して、bcguser アカウントのパスワードを正確に再入力します。これによっても、「サービスとしてログオン」ユーザー権限が bcguser アカウントに付与されます。この作業は、アプリケーションを最初にインストールするときに行う必要があります。

満たされないリンク・エラー

WebSphere Application Server コンソールからアプリケーションを再始動すると、次のようなエラーが `SystemErr.log` に記録されます。

```
[7-06-07 11:40:35:682 UTC] 00000062 SystemErr R
java.lang.UnsatisfiedLinkError: /opt/IBM/bcghub-distrib/wasND/Profiles/
```

```
bcgprofile/installedApps/wpgCell/ BCGBPE.ear/native/libAIXNative.a (Library
is already loaded in another ClassLoader) [7-06-07 11:40:35:707 UTC]
00000062 SystemErr R at java.lang.ClassLoader.loadLibraryWithPath
(ClassLoader.java:953)
```

この例外は、アプリケーション・レベルの再始動を実行したときに観察されます。製品の機能への影響はないため、この例外は無視できます。この問題を解決するには、クラスターを再始動します。

WebSphere Partner Gateway の文書処理に関する問題の解決

DB2 上でメッセージング・エンジンを使用する WebSphere Partner Gateway の文書トランザクションのボリュームが大きいと、文書処理が突然停止して、以下のエラー・メッセージが出されます。

```
JMSQueueSende E com.ibm.bcg.util.JMSQueueSender sendMessage JMS Exception
occurred for queue: jms/bcg/queue/main_InboundQ javax.jms.JMSException:
CWSIA0067E: An exception was received during the call to the method
JmsMsgProducerImpl.sendMessage (#4): com.ibm.websphere.sib.
exception.SIResourceException: CWSIC8007E: An exception was caught from
the remote server with Probe Id 3-008-0007. Exception:
com.ibm.websphere.sib.exception.SIResourceException: CWSIP0002E: An
internal messaging error occurred in com.ibm.ws.sib.processor.impl.
ConsumerDispatcher, com.ibm.ws.sib.msgstore.RollbackException:
CWSIS1002E: An unexpected exception was caught during transaction
completion. Exception: com.ibm.ws.sib.msgstore.PersistenceException:
CWSIS1500E: The dispatcher cannot accept work...
```

この問題は、DB2 ログ・ファイルのサイズが、MAS データベースで指定された値を超えたときに発生します。この問題を解決するには、DB2 パラメーター **LOGFILSIZ** の値を大きくします。

AIX プラットフォームでのインストール・メモリー・ダンプの診断

WebSphere Partner Gateway を AIX プラットフォームにインストールするときに、ダイアログが表示される前にインストールが終了すると、メモリー・ダンプが生成され、インストール・ログ・ファイルが /tmp に作成されます。
'istemp4274431210719', 'ismp004', '.oslevel.datafiles', 'ismp006' メッセージがコンソールに表示されます。

メモリー・ダンプ分析は、以下のとおりです。

```
JVMDG304: Java core file written to /opt/websphere/pg_install/DBLoader/javacore5
0786.1194536183.txt
JVMDG215: Dump Handler has Processed Exception Signal 11 and produces a core and ja
vacore file.
```

これは、Java 仮想マシンに問題があり、それによってメモリー・ダンプが発生したことを意味します。この問題は、AIX プラットフォーム・バックで使用される *libaixppk.so* ネイティブ・ライブラリーに関する問題が原因となっています。これは

WebSphere Partner Gateway の問題ではないため、この問題の解決方法について詳しくは、<http://support.installshield.com/kb/view.asp?articleid=Q111262> を参照してください。

WebSphere Partner Gateway のアンインストール中にログが生成されない場合の問題の診断

この問題は、UNIX プラットフォームで、WebSphere Partner Gateway のアンインストール中にサーバーが正常に停止しなかった場合に発生します。したがって、その後サーバーが始動しても、ログには何も記録されません。この問題は、MAS サーバーの場合に頻繁に見られます。この問題を修正するには、MAS サーバーがこのプロセスを強制終了するために使用している java プロセスを確認し、ノード・エージェント、およびクラスターまたはサーバーをもう一度再始動します。

この java プロセスを見つけるには、以下のコマンドを使用します。

```
ps -ef | grep bcgmas
```

第 4 章 WebSphere Partner Gateway のマイグレーションのトラブルシューティング

この章では、以前のバージョンの WebSphere Partner Gateway を最新バージョンにマイグレーションするときに発生する可能性のある問題の解決策/次善策を詳述します。

スマート・マイグレーションの失敗の解決

以下のいずれかの理由でスマート・マイグレーションが失敗する場合があります。

1. 処理中にデプロイメント・マネージャーが停止した場合は、ハブ・マイグレーションが失敗することがあります。デプロイメント・マネージャーが稼働中であることを確認してから、ハブ・マイグレーションを続行してください。
2. WebSphere Partner Gateway のスマート・マイグレーションは、WebSphere Application Server (WAS) フィックスパックのアップグレード直後に実行すると失敗します。この原因は、フィックスパックのアップグレード後に WAS サーバーが内部的に停止して始動するからです。この問題を解決するには、フィックスパックのアップグレード・プロセスを開始した後、WebSphere Application Server (WAS) サーバーの構成を最新レベルに更新します。次に、すべてのクラスターまたはサーバーを停止し、WebSphere Partner Gateway のインストール・ガイドの手順に従ってマイグレーションを開始します。最後に、WebSphere Partner Gateway v6.2 のスマート・マイグレーションを開始します。

注: マイグレーション・インストーラーは、WebSphere Partner Gateway コンポーネントがデプロイされている各マシンで実行する必要があります。この作業は、コア・ファイルと製品バージョンをすべてのサーバー上で更新するために必要です。

注: 新しいインスタンスを作成した後、WebSphere Partner Gateway アプリケーションを始動できない場合は、別のデプロイメント・マネージャーを使用します。

マイグレーション後の文書処理の失敗のトラブルシューティング

WebSphere Partner Gateway v6.0x から v6.2 にマイグレーションしている間、取引パートナーは、文書を WebSphere Partner Gateway に送信できない場合があります。これは、WebSphere Partner Gateway のシンプル・モードとシンプル配布モード (v6.1 以降) では、以前のリリースで使用されたのとは別のデフォルト・ポート値が使用されるからです。それに対して、完全配布モードでは、以前のバージョンの WebSphere Partner Gateway で使用されたのと同じデフォルト・ポート値が維持されます。

例えば、WebSphere Partner Gateway v6.0.x のレシーバーのデフォルト・ポート値は、非セキュア・ポート = 57080、セキュア・ポート = 57443 です。

WebSphere Partner Gateway v6.2 のシンプル・モードおよびシンプル配布モードのレシーバーのデフォルト・ポート値は、非セキュア・ポート = 58080、セキュア・ポート = 58443 です。

取引パートナーの B2B ソフトウェアを更新して、WebSphere Partner Gateway のレシーバー URL の新しいポート値が確実に参照されるようにしてください。

WebSphere Partner Gateway 6.2 にマイグレーションした後、JMS 統合が失敗する

WebSphere Partner Gateway をバージョン 6.0 からバージョン 6.2 にマイグレーションすると、JMS レシーバーおよび JMS 宛先が機能せず、SystemOut ログに以下のエラー・メッセージが表示されます。

```
- 00000041 JmsReceiverWo E JmsReceiverWorker trace  
Exception: Queue connection is null. Possible cause is that JMSConnectionFactory  
is configured instead of JMSQueueConnectionFactory -  
00  
00041 jmsReceiverWo E jmsReceiverWorker trace Got exception while Polling: Excepti  
on : Queue connection is null. Possible cause is that JMSConnectionFactory is confi  
gured instead of JMSQueueConnectionFactory javax.jms.JMSEException: Exception : Que  
ue connection is null. Possible cause is that JMSConnectionFactory is configured ins  
tead of JMSQueueConnectionFactory at com.ibm.bcg.server.receiver.JmsReceiverWorker.  
connect(JmsReceiverWorker.java:376) at com.ibm.bcg.server.receiver.JmsReceiverWorke  
r.run(JmsReceiverWorker.java:1882)
```

WebSphere Partner Gateway 6.2 では、前提条件として WebSphere Messaging Queue (WMQ) を必要としませんが、マイグレーション前のシステムで WMQ を JMS 統合に使用している場合は、以下の手順を実行してください。

1. **WMQ_path**>¥java¥lib にある fscontext.jar と providerutil.jar を WebSphere Partner Gateway コンポーネントの userexits フォルダにコピーします。

注: レシーバーの場合は、< **WebSphere Partner Gateway_path**>¥receiver¥lib¥userexits です。文書マネージャーの場合は、<**WebSphere Partner Gateway_path**>¥router¥lib¥userexits です。

2. WebSphere Partner Gateway サーバーを再始動します。

サンプルをインポートするときのエラー

サンプルを WID 6.2 にインポートすると、Rational ツールにマイグレーションするよう求められます。Rational ツールにマイグレーションするときに、FTP ログには以下のエラーが表示されます。

```
dependent Utility project defined in v6 META-INF/. modulemaps:  
PIP3A4BuyerEJBClient is not defined as a v7 dependent project in the  
.settings/org.eclipse.wst.common.component file. dependent Utility project  
defined in v6 META-INF/. modulemaps: PIP3A4SellerEJBClient is not defined  
as a v7 dependent project in the .settings/  
org.eclipse.wst.common.component file.
```

この問題を解決するには、J2EE モジュール依存関係のプロパティ・ページを使用して、依存関係を追加します。

第 5 章 トランスポート・プロトコルに関する問題 (送受信) のトラブルシューティング

この章は、トランスポートに関する問題の解決に役立ちます。

SFTP の問題の解決

SFTP プロトコルに関する問題を解決するためのヒントと解決策を以下にいくつか示します。

SFTP のトレースを使用可能にする方法

このタスクについて

WebSphere Partner Gateway で、デバッグ・ログを使用可能に設定して、SFTP 障害に関連するエラー・メッセージをトレースします。デバッグ・ログを使用可能にするには、次のようにします。

1. **WebSphere Application Server** 管理コンソール > 「トラブルシューティング」 > 「ログおよびトレース」 > 「bcgServer」 > 「診断トレース・サービス」 > 「ログ詳細レベルの変更」 > 「ランタイム」 にナビゲートします。
2. 「com.ibm.j2ca」 をクリックし、トレース・レベルとして 「finest」 を選択します。

WebSphere Application Server での SFTP レシーバー宛先の作成の失敗に対するトラブルシューティング

WebSphere Partner Gateway で SFTP レシーバー宛先を正常に作成したら、WebSphere Application Server 管理コンソールで **WAS** 管理 > 「リソース・アダプター」 > 「J2C 接続ファクトリー」 を選択して、活動化仕様が作成されているかどうかを確認します。

1. SFTP 宛先を作成/更新するたびに、対応するクラスターまたは文書マネージャーを再始動する必要があります。
2. hostKey ファイルを正しく指定する必要があります。そうしないと、以下のエラーが SystemOut.log ファイルに記録されます。

```
javax.resource.spi.ResourceAllocationException: An error occurred while validating the host key file. The specified host key file does not exist. The Adapter could not perform server authentication
at com.ibm.ejs.j2c.FreePool.createManagedConnectionWithMCWrapper (FreePool.java:2148)
at com.ibm.ejs.j2c.FreePool.createOrWaitForConnection (FreePool.java:1568)
```

3. SFTP のユーザー名、パスワード、および出力ディレクトリーは、正しく指定する必要があります。そうしないと、以下のエラーが SystemOut.log ファイルに記録されます。

```
"0000001e SystemErrR Caused by: javax.resource.spi.  
InvalidPropertyException: Error while validating ActivationSpec properties,  
UserName/PrivateKeyFilePath/Passphrase EventDirectory(not able to connect, logi  
n and initialize the FTP server connection, rectify the error properties,
```

```
Check EISEncoding also for validity).  
UserName = ibm  
PrivateKeyFilePath
```

4. SFTP レシーバー/宛先の作成ページで「出力ディレクトリー/リモート・イベン
ト・ディレクトリー」のパスを指定するときは、相対パスを使用します。
5. SFTP レシーバーを作成するたびに、対応する SFTP MDB Bean
(SFTP-MDB-sftpRec-timestamp) が、WebSphere Partner Gateway をインストール
した以下のロケーションに作成されることを確認します。

```
<installDir>>/wasND/Profiles/<profileName>>/installedAp  
ps/<cellName>/BCGReceiver.ear/SFTP-MDB-sftpRec-timestamp
```

注: 文書を SFTP 宛先に送信している間、SFTP サーバーが稼働していることを確
認してください。SFTP サーバーが稼働していないと、トランザクションが失敗し
て、次のエラーが表示されます。「<SFTP destination> に送達できません。(Not
able to deliver to < SFTP destination> .)」

ユーザー・レベル・ロックを備えた FTP スクリプト記述宛先

このタスクについて

複数の文書マネージャーのセットアップでは、すべての文書マネージャーのインス
タンスが FTP スクリプト記述宛先に文書を送達することを試みます。

「**ロック・ユーザー**」オプションに「はい」を設定すると、すべてのインスタンス
が同じユーザー・アカウントのロックを試みますが、ロックを獲得する文書マネー
ジャーのインスタンスは 1 つのみです。

その他のすべてのインスタンスは、再試行カウントを超えるまで、ロックの獲得を
試み続けます。再試行カウントを超える前にインスタンスがロックを獲得できな
かった場合は、文書の送達が失敗し、「文書の送達が失敗しました - パートナー宛先
への文書の送達 (Document Delivery Failed - Document delivery to partner
Destination)」というエラーが出されます。

このようなシナリオの場合は、WebSphere Partner Gateway コンソールで FTP スク
リプト記述宛先の「**ロック・ユーザー**」属性の値に「いいえ」を設定します。

「**ロック・ユーザー**」属性の値を編集するには、以下のステップを実行します。

1. WebSphere Partner Gateway コンソールで、「**パートナー**」>「**宛先**」>**FTP ス
クリプト記述ゲートウェイ**の順にナビゲートします (特定の FTP スクリプト記
述ゲートウェイを選択します)。
2. 「**ロック・ユーザー**」属性を編集して「いいえ」を設定します。

第 6 章 アーカイバーの問題のトラブルシューティング

この章では、アーカイバーに関する問題の解決策を説明します。

アーカイバー・エクスポート障害の診断

エクスポートにおいて、否認防止データ・ストアの内容のアーカイブやデータベース表のエクスポートに使用されるロケーションのアクセス権 (またはスペース、あるいはその両方) が不十分であるために、障害が発生する場合があります。エクスポートが失敗する場合は、適切なユーザー資格情報を使用して、サンプル・ファイルを対応するディレクトリーに書き込んでみてください。以下の手順に従います。

1. ファイル・バックアップのコピーが失敗する場合は、ハブ所有者 (例えば、「bcguser」) として、NonRep ファイル・アーカイブ・ロケーション・ディレクトリーにサンプル・ファイルを書き込みます。
2. データベース表のエクスポートが失敗する場合は、DB2 分離ユーザーとして NonRep データベース・アーカイブ・ロケーションにファイルを書き込みます。データベースが Oracle の場合は、Oracle インスタンス所有者として NonRep データベース・アーカイブ・ロケーションにファイルを書き込みます。

上記の場合においてそれぞれのユーザーとしてファイルを書き込めない場合、問題はこれらのフォルダーに付与されたアクセス権に関係している可能性があります。

アーカイバー・タスクの障害はイベント 21 ページの『BCG700002 - アーカイバーでタスク {0} のエラーが発生しました。実行時間 {1} エラーの原因 {2}』としてログに記録されるので、イベント・ビューアーでメッセージの詳細説明を参照してください。

アーカイバー・データのリストア障害の解決

このタスクについて

アーカイブ・データをリストアするときに、エラー・イベント BCG700005 が発生する場合があります。イベント・ビューアーを使用して、エラーの詳細説明を参照してください。アーカイブのリストア障害を解決するには、次の手順を実行します。

- NonRep ファイル・バックアップが NonRep ファイル・アーカイブ・ロケーション内に適切な形式で存在するかどうかを確認します。
- NonRep データベース・バックアップが NonRep データベース・アーカイブ・ロケーション内に適切な形式で存在するかどうかを確認します。
- データベースが DB2 の場合は、適切なフィックスパックが適用された正しいバージョンがインストールされているかどうかを確認します。DB2 v8.0 では、WebSphere Partner Gateway コンソール経由でのアーカイバー・リストアはサポートされていません。その場合は、スクリプト「bcgDBNonRepImport」を使用して手動でデータをリストアする必要があります。

- データベースが Oracle の場合は、適切なフィックスパックが適用された正しいバージョンがインストールされているかどうかを確認します。Oracle 9i では、WebSphere Partner Gateway コンソール経由でのアーカイバー・リストアはサポートされていません。その場合は、スクリプト「bcgDBNonRepImport」を使用して手動でデータをリストアする必要があります。

アーカイブからのコンソール・ベース・リストアのサポート

WebSphere Partner Gateway v6.2 のアーカイブからのコンソール・ベース・リストア機能では、v6.1 よりも前の WebSphere Partner Gateway のバージョンで取ったバックアップ・アーカイブはサポートされません。

データベースが DB2 であり、WebSphere Partner Gateway v6.1 以降でアーカイブ・バックアップを取った場合は、WebSphere Partner Gateway v6.2 で提供されるリストア機能を使用してそれらのアーカイブをリストアできます。次のステップを実行します。

1. bcgDBNonRepExport スクリプトを使用してバックアップを取る際に使用するアーカイブ宛先は、DB2 分離ユーザーにとってアクセス可能でなければなりません。場合によっては、フォルダーとそのサブディレクトリーの所有権限を変更して、DB2 分離ユーザーがファイルを読み取れるようにする必要があります。
2. WebSphere Partner Gateway v6.2 の「リストア」画面で、以下の手順を実行します。
 - 開始日と終了日を入力します。この範囲は、データのインポート元となるフォルダーをフィルタリングするために使用します。
 - 「NonRep ファイル・アーカイブ・ロケーション」には、否認防止データの COPY (bcgArchive スクリプトの呼び出し) 時にアーカイブに使用された宛先ロケーションの完全修飾パスを入力します。ハブ・プロセス所有者 (例: bcguser) は、このロケーションとそのサブフォルダーの読み取り権限を持っている必要があります。
 - (上記の項目 1 で) アーカイブ宛先に使用した完全修飾パス名を「NonRep データベース・アーカイブ・ロケーション」に入力します。
 - 「リストア」をクリックして、データをリストアします。

Oracle データベースの場合、前のバージョンでアーカイブされたデータを WebSphere Partner Gateway 6.2 インストール済み環境にリストアすることはできません。その場合は、以下のエラーが発生して失敗します。「DB のリストア中に例外が発生しました (Exception while doing the db restore)

```
java.sql.SQLException: ORA-20999: 20002 AR_IMPORT_DATA ORA-29913:  
ODCIEXTTABLEOPEN コールアウトの実行中にエラーが発生しました。 ORA-29400: データ・カートリッジ・エラーが発生しました。 KUP-11010: ロードで少なくとも 1  
つのダンプ・ファイルをオープンできません。 ORA-06512:  
"BCGAPPSD.AR_IMPORT_DATA", 行 338]
```

予備手段は、Oracle のエクスポート・ファイルの形式を変換することです。このためには、ユーザーは、以下のように別の WebSphere Partner Gateway v6.2 インストール済み環境 (本稼働とは別個のインストール済み環境) が必要となります。

- bcgDBNonRepImport のスクリプトを使用して、テーブル・データを LG_MSG_ARCHIVE テーブルにインポートします。
- コンソールからアーカイバーを実行します。これにより、WebSphere Partner Gateway v6.2 でサポートされる形式でデータベース・エクスポート・ファイルが作成されます。このエクスポート・ファイルはコンソールを使用してリストアできます。
- DB2 のリストアで説明した手順に従います。

6.0 でアーカイブされたデータの否認防止ファイル・バックアップを 6.2 コンソールからリストアするには、「アーカイバー・リストア」画面で、最終変更日が開始日から終了日までの範囲内にあるディレクトリーを選択します (6.0 の否認防止ディレクトリーの構造は YYYYMMDD 形式ではないため)。

ヒントおよび予備手段

アーカイバーの問題解決に役立ついくつかのヒントおよび予備手段を以下に示します。

- 「アーカイバー構成」ページの状況の自動最新表示が有効になっていない。
解決方法: ページを手動で最新表示して、適切な更新後の状況を取得します。
- アーカイバー・リストア状況の自動最新表示が有効になっていない。
解決方法: 「アーカイバー・リストア」ページの最新表示ボタンをクリックして、アーカイバー・リストア操作の更新後の状況を取得します。
- アーカイバーのリストアされた文書の検索: 検索結果のロー・メッセージ・ビューアーにメッセージ詳細が表示されない。
解決方法: 同じ VUID を持つ文書がアーカイバー・リストア・ロケーション (共通ディレクトリーの dataRestore フォルダー) に存在するかどうかを確認します。
- アーカイバー・レポートにアーカイバー・タスク障害の原因が説明されていない。
解決方法: イベント BCG700002 のイベント記述を参照し、それに従って解決します。

第 7 章 Websphere Transformation Extender (WTX) の統合に関する問題のトラブルシューティング

WTX の統合に関する問題を解決するには、以下のステップを実行します。

1. WebSphere Partner Gateway v6.2 がインストールされ、実行されていることを確認します。
2. WebSphere Transformation Extender v8.2 (FP3 適用) がインストールされ、実行されていることを確認します。
3. WebSphere Transformation Extender (WTX) サーバーは、WebSphere Partner Gateway 共通ファイル・システムにアクセスする必要があります。 WebSphere Partner Gateway の共通ファイル・システムが WTX サーバー上にマップされていることを確認します。
4. WebSphere Transformation Extender のインストール・ディレクトリーにある `dtspi.jar` を `<WebSphere Partner Gateway Install>\router\lib\userexits` ディレクトリーにコピーします。ハブ所有者 (bcguser など) に jar ファイルの「読み取り」権限と「実行」権限があることを確認します。この jar ファイルには、WTX を起動して変換を実行するために必要なランタイム・クラスが含まれています。
5. WebSphere Partner Gateway を再始動して、新規 JAR ファイルを取得します。
6. Windows 以外のすべてのプラットフォームの場合は、 WTX インストール・ディレクトリーにあるファイル `setenv.sh` を実行します。これにより、現在のセッションで WTX に必要な環境変数が初期化されます。新しいパス設定をロードするために、WebSphere Partner Gateway サーバーを同じセッションから再始動する必要があります。 Windows の場合は、WTX インストール・ディレクトリー・パスをシステム環境変数の PATH に追加する必要があります。
7. WebSphere Transformation Extender RMI Server を使用している場合は、サーバーを始動します。詳しくは、WTX の資料を参照してください。
8. WebSphere Partner Gateway コンソールで、以下の属性の値を指定します。
 - `wtx.rmihostname`
 - `wtx.rmiport`
 - `rmiuseserver`
 - `bcg.wtx.mapLocation` (「システム管理」タブの下にあります)

WTX RMI サーバーが listen しているポート番号を取得するには、コマンド・プロンプトを開き、`<WTXinstallDir>/startRMIServer.bat -verbose` を起動します。

注: WebSphere Transformation Extender マップを WebSphere Partner Gateway コンソールにアップロードしている間、 WebSphere Transformation Extender がインストールされているネイティブ・プラットフォーム用にマップがコンパイルされることを確認してください。特定のプラットフォーム用に WebSphere Transformation Extender マップをコンパイルするには、 WTX Design Studio の「マップの作成 (build map)」オプションを使用します。

第 8 章 実行時エラー、検証エラー、および例外のトラブルシューティング

この章では、WebSphere Partner Gateway のインストール中または作業中に発生する可能性のある、いくつかの共通のエラー・メッセージの解決策/次善策を詳述します。すべてのエラー・メッセージとその解決策の詳細なリストについては、WebSphere Partner Gateway コンソールを参照してください。すべてのエラー・メッセージには、詳細な情報（問題の原因、症状、詳細な説明、解決策など）へのリンクが含まれています。

エラー・イベントの解決

このセクションでは、WebSphere Partner Gateway のインストール中や作業中に発生する可能性のあるいくつかのエラーについて、その解決策や次善策を説明します。

BCG103201 - ハブ所有者状態エンジン・エラー

エラーの理由: {0}。状態エンジンがスポンサー・イベントを取得/送信できない場合に、「ハブ所有者状態エンジン・エラー」が発生します。

このエラーが生成されるのは、データベースが使用不可であるか、メッセージング・システムおよび共通ファイル・システム (CFS) が使用不可である場合です。

この問題を解決するには、データベース・メッセージング・システムや共通ファイル・システム (CFS) など、依存するリソースが使用可能であることを確認してください。

BCG103203 - レシーバー処理エラー

ターゲット '{0}{1}' が文書の処理に失敗しました。エラー: {2}。WebSphere Partner Gateway レシーバーが受信文書を処理できない場合に、「レシーバー処理エラー」が発生します。このエラーは、以下の理由で生成されます。

- 共通ファイル・システムのアクセス権が不十分である
- 共通ファイル・システムの下に必須のディレクトリが存在しない
- コンテンツをソース・ストリームから読み取れない
- メタデータの取得に失敗した

この問題を解決するには、イベント引数の解釈に基づいて訂正処置を取ってください。

BCG103205 - レシーバー・エラー

ターゲット '{0}{1}' がターゲットの処理に失敗しました: {2}。WebSphere Partner Gateway レシーバーが受信文書を処理できない場合に、「レシーバー・エラー」が発生します。

このエラーが生成されるのは、共通ファイル・システム (CFS) の下の受信文書を存続させることができない場合です。

この問題を解決するには、共通ファイル・システムに使用できるディスク・スペースが十分にあり、ファイルを格納するためのアクセス権があることを確認してください。

BCG210031 - 文書を否認防止できません

イベント BCG210031 は、以下の理由で生成されます。

- データベースまたはネットワーク (接続) がダウンする。
- 共通ファイル・システムへのネットワーク接続がダウンする。
- 共通ファイル・システム・ディスク・スペースが満杯である。

このイベントを解決するには、以下の確認を実行してから、イベント・コード 210031 の障害が発生した文書の再送を開始します。

1. WebSphere Partner Gateway データベースおよび database ワークステーションへのネットワークが設定済みであり、稼働中であることを確認します。
2. 共通ファイル・システムと WebSphere Partner Gateway コンポーネントの間のネットワーク接続が確立されていることを確認します。
3. 共通ファイル・システム・ディスクに文書を書き込むための十分なフリー・スペースがあることを確認します。

BCG210033 - メッセージの格納に失敗しました

文書をプレーン・テキストで保管できません: {0}。

このエラーは、WebSphere Partner Gateway 経由で文書が送信されるときに発生します。文書のメッセージ格納操作中に、ファイル・システムおよびデータベースのアクセスに問題があると、このエラーが生成されます。

このイベントは、以下の理由で生成されます。

- データベースがダウンしている。
- ファイル・システムがいっぱいである。または
- 文書のメッセージの格納時にファイル・システムまたはデータベースにアクセスしようとして、予期しないその他のエラー状態になった可能性がある。

この問題を解決するには、システム・トレース・ログを分析してください。

BCG240701 - アクティビティ・ロギング・エラー

アクティビティ詳細のロギング時にエラーが発生しました: {0}

このエラーは、WebSphere Partner Gateway で文書情報がログに記録されるときに発生します。

アクティビティ・ロギング・エラー。 <error string>

「アクティビティ・ロギング・エラー」は、以下の理由で生成されます。

- 重複する文書 ID が存在する場合。
- 文書 ID が存在しない。
- 同期文書リンクの確立に失敗した。
- バッチ状況に完了のマークを付けるときにエラーが発生した。
- 要約をログに記録するときにエラーが発生した。
- アクティビティ・テーブルへの挿入中にエラーが発生した。
- AS アクティビティをログに記録するときにエラーが発生した。
- アクティビティの終了状態をログに記録するときにエラーが発生した。
- RN アクティビティをログに記録するときにエラーが発生した。
- vtp 状況をログに記録するときにエラーが発生した。
- CIDX に対する要求応答リンクの確立中にエラーが発生した。
- 同期要求応答リンクの確立中にエラーが発生した。
- アクティビティ・チェーンの作成中にエラーが発生した。
- エンベロープ包含をログに記録するときにエラーが発生した。
- バッチ状況に完了のマークを付けるときにエラーが発生した。

これは汎用エラーであり、文書情報をデータベースに記録するときに問題が発生した場合に出されます。

この問題を解決するには、処理対象として正しい文書が送信されていることを確認してください。

BCG410020 - 「メッセージを生成するための情報が足りません」エラー

{0} がありません

このエラーは、以下の理由で生成されます。

- エラー用の SOAP メッセージを作成できない。
- 確認通知用の SOAP メッセージを作成できない。
- pong 用の SOAP メッセージを作成できない。
- 状況要求用の SOAP メッセージを作成できない。

この問題を解決するには、ログを確認して、対処の方針を決定します。

BCG700002 - アーカイバーでタスク {0} のエラーが発生しました。実行時間 {1} エラーの原因 {2}

このイベントが生成されるのは、アーカイブ・タスクの実行中にエラー条件が発生した場合です。アーカイブに失敗したときに以下のエラーが発生します。

- タスク {0} のアーカイバー・エラー。
- 実行時間 {1}。
- エラーの理由 {2}。

このエラーは、以下の理由で生成されます。

- ファイルのアクセス権が不適切である - ファイルのバックアップ用に指定したディレクトリーに書き込みアクセス権が設定されていません。
- ディレクトリーが存在しない - ユーザーがファイルおよび DB のバックアップ用に指定したディレクトリーが存在しません。
- ディスク・スペースがない。

アーカイブ・タスクが失敗すると、このエラーが生成されます。

この問題を解決するには、以下を確認します。

- ファイルのアクセス権が不適切である - ユーザーがファイルおよび DB のバックアップ用に指定したディレクトリーに書き込みアクセス権が設定されていることを確認してください。
- ディレクトリーが存在しない - ユーザーがファイルおよび DB のバックアップ用に指定したディレクトリーが存在することを確認してください。
- ディスク・スペースがない - データをアーカイブするマシンに十分なディスク・スペースがあることを確認してください。
- DB 側でのロック - データベース・ロックの数を増加させてください。
- DB ログ・ファイル用のスペースがない - スペースを増加させてください。

BCG210022 - プロセス・トランザクションのロールバック

このイベントは、bcg_router.log ファイルに、以下の詳細と共に表示されます。

```
Message Logged
Message
Message Code:210022
Final State:Failed
Severity:Info
Location:null
ArgumentString:1
EventTimestamp:1218741497343
BusinessDocumentId:121873973432400505696471D0063494719D3953EC4CEA6
HostIPAddress:53.67.26.177
EventId:121874149734300505696471D0116746AAD747214D08DE1
MessageName:Document processing transaction rolled back
ParentBusinessDocumentId:121873973432400505696471D0063494719D3953EC4CEA6
```

この問題を解決するには、次のステップを実行します。

1. WebSphere Partner Gateway アプリケーション・データベースに接続した後に、以下の照会を実行します。select ACTIVITYID,STATUSCD,CREATEDATE FROM BP_PROCESS_LOG WHERE STATUSCD=2
2. WebSphere Partner Gateway サーバーをシャットダウンします。
3. 返された各レコードについて、以下を実行する必要があります。 update bp_process_log set statuscd = 1 where ACTIVITYID = '前の照会から返された値'; commit;
4. WebSphere Partner Gateway サーバーを始動します。

BCG240415 - MDN に署名されていません

WebSphere Partner Gateway が同じ文書を頻繁に処理しようとする、以下のエラーが発生することがあります。

```
BCG210031: 文書 {0} を否認防止できません BCG240415: AS パッケージャー・エラー: {0}
router.log ファイル内のメッセージの例を次に示します。
681 ERROR [BPEEngine] [main Thread 1] - Error in nonRepProcess
,681 ERROR [BPEEngine] [main Thread 1] - java.io.FileNotFoundException
xception:
/opt/wbi/ca/common/data/Inbound/process/917/fa/xxx (A file or directory in the path
name does not exist.) at java.io.FileInputStream.open(Native Method)at java.io.Fil
eInputStream.
```

これらのエラーは、影響を受ける文書 (ログ・ファイルに固有 ID または UUID で示される) がシステム内で main_inbound キューと common¥data¥inbound¥serialize フォルダを循環している場合に生成されます。

このエラーを解決するには、次の手順を実行します。

1. 文書マネージャーを停止します。
2. キューをクリアします。
3. main_inbound フォルダおよび common¥data¥inbound¥serialize フォルダの両方で、影響を受ける UUID 項目を除去します。
4. 最初の操作が成功しない場合は、タイミング条件が原因である可能性があります。この場合には、システムを再度クリアします。
5. router.log にエラーが含まれていないことを確認します。さらに、ルーターの CPU 使用にエラーが含まれておらず、CPU 使用が正常になっていなければなりません。

BCG210001 - チャネル検査エラーおよび BCGEDIEV0056 - 交換テーブル検索の警告

このエラーは、ユニコード文字セットを使用して Oracle データベースを作成せずに、データベースを Windows 1252 などの非ユニコード・コード・ページに間違っ
て設定した場合に発生します。

Oracle システム上で EDI 変換マップが失敗して、チャネル検査エラーおよびエラー BCGEDIEV0056 と BCG210001 が発生し、以下の警告イベントが生成されることがあります。

```
警告 BCGEDIEV0056 イベント「交換テーブル検索の警告」:  
メッセージのエンベロープ解除中に、変換テーブルの検索結果の  
エントリはありませんでした。  
次:「チャネル検査エラー - チャネル検索が失敗しました。  
チャネル情報が不十分です。」
```

Oracle の文字セットを確認するには、次の手順を実行します。

1. Oracle データベースに接続します。
2. v\$nls_parameters から NLS_CHARACTERSET を選択します。
3. AL32UTF の値が戻されるはずですが。
4. ご使用の Oracle システムでこれを確認します。データベースが作成された後でデータベースの文字セットを直接変更する方法はありません。解決方法は、データベース文字セットおよび国別文字セットをユニコードにして、データベースを再作成することです。

BCG210013 - 接続が完全に構成されていません

以下のエラーが原因で、インバウンド文書を受信できません。

BCG210013 - 接続が完全に構成されていません

他のすべての構成が正しいと思われる場合、このエラーの最も一般的な原因は、レシーバー指定が正しくないことです。

1. レシーバー URL 定義の前にスペースがないことを確認します。
2. パートナーで使用可能な他のビジネス ID を使用してテスト EDI メッセージの送信を試行し、問題の範囲を限定します。これがこのビジネス ID に固有の問題かどうかを確認します。
3. ステップ 2 が失敗する場合は、エラー・シナリオのデバッグ・トレースを次の手順で取得します。詳しくは、67 ページの『WebSphere Partner Gateway のデバッグ・トレースを使用可能にする』を参照してください。
 - a. WebSphere Partner Gateway をシャットダウンします。
 - b. 以下のコマンドを使用して、WebSphere Partner Gateway のレシーバーおよびルーターのデバッグ設定を FINEST に変更します。

```
"*=info:com.ibm.bcg.*=finest"
```
 - c. 現在のログを削除 (または別のフォルダーにバックアップ) します。現在のログは、77 ページの『インストール・ログ・ファイルのロケーション』に格納されます。
 - d. WebSphere Partner Gateway を再始動します。
 - e. エラー・シナリオを 1 回のみ実行します。
 - f. すべてのログを、コンソール・ビューアーから取得したエラー・メッセージの画面取りと共に圧縮して、IBM お客様サポートに送信します。

BCGEDICM0001 - 予期しない例外が発生しました

大きなサイズの EDI 変換を実行するように WebSphere Partner Gateway を構成すると、文書の変換が失敗し、イベント BCGEDICM0001 がログに記録される場合があります。イベントの詳細を以下に示します。

```
BCGEDICM0001: An unexpected exception occurred in component: Validation. Exception text: java.lang.NullPointerException
```

大きなファイルの変換時、デフォルトでは、WebSphere Partner Gateway は、ページ編集を使用して、構文解析の際に大きな文書をメモリーに保持する必要がないようにします。このために、リリース 6.1 以降では「システム管理」パネルの PageFileDir プロパティと PagingThreshold プロパティが使用され、リリース 6.0.x 以降ではルーター・プロパティの ediparms.properties が使用されます。

デフォルトでは、これらのプロパティ値に指定される値は、PageFileDir=1000、PagingThreshold=1000 です。

PageFileDir に値を指定しない場合、WebSphere Partner Gateway では、System プロパティの user.home ディレクトリが使用されました。このディレクトリは、bcguser、または WebSphere Partner Gateway のインストール時に使用したユーザー

ID に対して、読み取り、書き込み、および削除の各権限を持つことが期待されています。したがって、変換は失敗し、BCGEDICM0001 イベントがログに記録されません。

この問題を解決するには、次のステップを実行します。

1. user.home ディレクトリーのユーザー権限を確認して、権限を適切に変更します。
2. 必要に応じて、プロパティ PageFileDir にディレクトリー・パスを指定できます。これにより、このディレクトリーは、内部のページング用に使用されます。このディレクトリーの権限には、読み取り、書き込み、および削除を設定する必要があります。

キャッシュ更新の遅延による問題が生じる場合、その問題を回避するには、WebSphere Partner Gateway サーバーを再始動します。

コンソールでの 500 エラーの修正

ブラウザーに「エラー: 500」が表示されることがあり、後続のエラーは SystemOut.log ファイルに記録されます。

```
SRVE0026E: [Servlet Error]-[action]: java.lang.NullPointerException error
```

このエラーは、WebSphere Partner Gateway をインストールし、コンソールを開始して、「hubadmin」としてログインし、デフォルト・パスワードを変更するときに生成されます。このエラーは、ブラウザーで Cookie がオフになっているか、Cookie のファイアウォール設定が厳しすぎる場合に発生します。

このエラーを解決するには、次の手順を実行します。

1. ファイアウォールのセキュリティー・レベルを「中」または「中高」に変更します。
2. ブラウザーで Cookie を有効にします。

このエラーは、サーバーの 1 つがダウンしている場合にも発生することがあります。すべてのサーバーが稼働している場合は、ログを調べて、エラーの原因を突き止めます。

WebSphere Partner Gateway が C:\IBM\WPG にインストールされている場合、ログ・ファイルはこの関連ロケーションに保管されます。詳しくは、77 ページの『インストール・ログ・ファイルのロケーション』を参照してください。

各フォルダーの SystemErr ログ・ファイルを調べます。このファイルには、最後に試行されたアクセスのタイム・スタンプが含まれているはずです。ファイルの終わりまでスクロールダウンして、最新のログ項目を表示し、エラー・メッセージを確認します。

ORA-00988 エラー

このエラーは Oracle の制限が原因で発生します。数値で始まるパスワードを入力する場合、パスワードを引用符で囲まないと、「ORA-00988: パスワードがないか、または無効です。(ORA-00988: missing or invalid password(s).)」というエラーが発生します。

このエラーを解決するには、WebSphere Partner Gateway インストール・パネルで数値のパスワードを入力するときに、パスワードを引用符で囲みます (例: “123456ABC”)

エラー - TCPC0003E および CHF0029E

WebSphere Partner Gateway レシーバー・コンポーネントが始動に失敗して、SystemOut.log ファイルに TCPC0003E および CHF0029E エラーが記録されることがあります。

これらのエラーは、以下の条件が原因で発生することがあります。

1. 構成されたポートが他のアプリケーションによって使用される場合、ポート競合が発生する可能性がある。
2. 1024 よりも小さい番号のポートは root のために予約されている特権ポートである。この制限に対処できる特別な方法でシステムが構成されていない限り、非 root ユーザーはこれらのポートにバインドできません。WebSphere Partner Gateway は非 root ユーザー bcguser を使用してコンポーネントを開始するため、特権ポートにバインドできません。

注: WebSphere Partner Gateway では、通常、非 root ユーザーはレシーバーを開始しても、これらの特権ポートにはバインドできません。レシーバー・ポートを 1024 より大きい使用可能なポート (つまり、他のアプリケーションが使用していないポート) に変更します。以下の例は、ポート 80 を nnn に変更する方法を示しています。

1. レシーバーを停止します。
2. 以下のファイル内でポート番号 80 を探し、nnn に置き換えます。

注: 編集する前に、すべてのファイルをバックアップします。

- 対象となるのは、<Installed_Path>bcghub/was/profiles/bcgreceiver の下にある以下のファイルです。
 1. config¥cells¥DefaultNode¥virtualhosts.xml。
 2. config¥cells¥DefaultNode¥nodes¥DefaultNode¥serverindex.xml。
 3. config¥templates¥servertypes¥APPLICATION_SERVER¥serverindex.xml。
 4. installedFilters¥wlm¥bcgreceiver¥target.xml。
 5. logs¥portdef.props。
- <Installed_Path¥bcghub¥receiver¥lib¥config¥bcg_receiver.properties を編集します。

注: ポート番号は、WebSphere Application Server 管理コンソールを使用して変更することもできます。「サーバー」>「ポート」ページに移動し、「WC_defaulthost」のポートを変更します。

1. レシーバーを始動します。
2. ご使用のブラウザーにレシーバー URL `http://<host_name>:xyz/bcgreceiver` を入力して、レシーバーが動作するようにします。ブラウザーが「サポートされない操作」メッセージを報告すれば、正常な結果です。レシーバーがポートに正常にバインドされない場合は、「ページを表示できません」というメッセージが表示されます。

WebSphere MQ メッセージの修正

WebSphere MQ をメッセージング・サービスとして使用するゲートウェイとして JMS を使用する場合は、特定のメッセージをキューに入れた場合に次のメッセージを受け取ることがあります。MQJMS2007: failed to send message to MQ queue.

これは、コネクターが出力キューにメッセージを書き込めない場合に発生します。このエラーは、キューの最大メッセージ長属性が原因である可能性があります。キュー・マネージャーまたはチャンネルに、最大メッセージのサイズよりも小さい値が設定されています。キュー、キュー・マネージャー、およびチャンネルのメッセージ長属性を変更するには、次の手順を実行します。

1. WebSphere MQ エクスプローラーの「**キュー・マネージャー・プロパティ**」に移動します。
2. 「**拡張**」タブをクリックして、最大メッセージ長の属性にメッセージのサイズよりも大きい値を設定します。
3. 「**チャンネル・プロパティ**」に移動します。
4. 「**拡張**」タブをクリックして、最大メッセージ長の属性にメッセージのサイズよりも大きい値を設定します。
5. ゲートウェイ作成時に指定したキューの「**キュー**」プロパティに移動します。
6. 拡張タブをクリックして、最大メッセージ長の属性にメッセージのサイズよりも大きい値を設定します。

MQJMS2013 エラー

WebSphere Partner Gateway が WebSphere MQ と通信するときに、以下のエラーが発生する場合があります。

MQJMS2013 無効なセキュリティ認証。

このエラーを解決するには、次のステップを実行します。

1. アプリケーションにログインするときに使用するユーザー ID を確認します。
2. 使用しているユーザー ID が `mqm` グループ (または、十分な権限を備えた別のグループ) に含まれていることを確認します。
3. ユーザー ID が `mqm` グループに含まれていない場合は、`mqm` グループにユーザー ID を追加してから `runmqsc REFRESH SECURITY(*)` コマンドを実行します。

SQL エラーの修正

SQLCODE -1225 エラー

システム上の DB2 リソースが少なくなると、WebSphere Partner Gateway サーバーのログに SQLCODE -1225 エラーとその後にスタック・トレースが出力されることがあります。

SQLCODE エラーの例を次に示します。

```
java.sql.SQLException: com.ibm.db2.jcc.c.SqlException:  
DB2 SQL error: SQLCODE: -1225, SQLSTATE: 57049, SQLERRMC: null
```

このエラーは一般に、トランザクション速度が速く (1 秒あたりの処理文書数が多い)、DB2 がこの速度を維持できない場合に発生します。データベース管理者がデータベースをモニターし、このような高トランザクション期間に対応できるようにデータベースを調整することをお勧めします。データベース・ロギングのパフォーマンスを向上させるには、以下の DB2 パラメーターを調整します。

- LOGPRIMARY。
- LOGSECOND。
- LOGFILESIZ。
- LOGFILESIZES。

SQLCODE -289 エラー

DB2 エラー・コード -289 は、データベースがファイル・システム上のスペースを使い尽くしたことを示しています。

1. データベース・サーバーの容量を追加できるかどうかをデータベース管理者に問い合わせてください。
2. あるいは、WebSphere Partner Gateway データを別のストレージ・ロケーションにアーカイブして、ディスク・スペースを解放することもできます。

SQLCODE -444 エラー

WebSphere Partner Gateway コンポーネント (bcgconsole、bcgreceiver、bcgdocmgr) のいずれかを始動するときに SQLCODE -444 エラー・メッセージが表示された場合は、DB2 データベース・マネージャーの SHEAPTHRES パラメーターの値を大きくしてください。このパラメーターは、DB2 インスタンス内のすべてのデータベースに定義される最高の sortheap 値より、少なくとも 2 倍の値にします。この設定を変更する前に、データベース管理者に相談するか、ご使用の DB2 の管理者ガイドを参照してください。

サンプル・コマンドを次に示します。db2 UPDATE DBM CFG USING SHEAPTHRES xxxxx IMMEDIATE。SHEAPTHRES の値を変更した後も SQLCODE -444 が解消されないときは、WebSphere Partner Gateway データベースの STMTHEAP と APPLHEAPSZ の値を減らすことができます。

サンプル・コマンドを次に示します。db2 UPDATE DB CFG FOR <dbname> USING APPLHEAPSZ xxxxx。

また、これは < DB2Home>%SQLLIB%bin%db2diag.log ファイルにも記録される場合があります。

BCGMAS データベースでの SQL 0964C (トランザクション・ログ・フル) エラー

WebSphere Partner Gateway で作成される BCGMAS データベースには、デフォルトの構成値として、LOGFILSIZ=1024 LOGPRIMARY=13 LOGSECOND=4 が設定されます。DB2 トランザクション・ログに必要なスペースの量は、さまざまな要因(特定の期間におけるピーク時の WebSphere Partner Gateway による文書処理速度など)に基づいて決まります。

キューにまだ文書が存在するのに WebSphere Partner Gateway が静止している様子である場合には、BCGMAS サーバーの FFDC ログを確認してください。BCGMAS サーバーがエラー SQL 0964C で失敗した場合は、BCGMAS データベースのトランザクション・ログのサイズ (LOGFILESIZ) と数 (LOGPRIMARY、LOGSECOND) を増やしてください。

reprocessDbLoggingErrors.bat での java.lang.NoClassDefFoundError

reprocessDbLoggingErrors.bat ファイルには、次のディレクトリーにある ws_runtime.jar へのパスが入っています。<WAS_HOME>%deploytool%¥itp¥plugins¥com.ibm.websphere.v61_6.1.0。しかし、このフォルダー名 com.ibm.websphere.v61_6.1.0 は、フィックスパックがリリースされるたびに対応するフィックスパックのバージョンに変更されます。そのため、バッチ・ファイルは ws_runtime.jar の検索に失敗します。したがって、java.lang.NoClassDefFoundError が発生する場合があります。

次の理由により java.lang.NoClassDefFoundError が生じる場合があります。

この問題を修正するには、ws_runtime.jar のパスを次のように設定する必要があります。

1. ディレクトリー <WAS_HOME>%deploytool%¥itp¥plugins¥com.ibm.websphere.v61_6.1.0 にナビゲートします。
2. ws_runtime.jar のパスを確認します。
3. ディレクトリー <WAS_HOME>%bin にナビゲートします。
4. reprocessDbLoggingErrors.bat ファイルのディレクトリーを編集します。
5. ws_runtime.jar の正しいパスを設定し、スクリプトを再実行します。

Solaris プラットフォーム上で再配置スクリプトによって生成される構文エラーの解決

再配置スクリプトと再デプロイメント・スクリプトを Solaris プラットフォーム上で実行すると、構文エラーが発生します。

```
bash-3.00$ ./bcgChangePorts.sh WC_defaulthost 58080 console
WPGsun3 Have you taken a backup of your existing
configurations?Y/N y./bcgChangePorts.sh: syntax error
at line 49: `BACKCONFIG=$' unexpected
```

再配置スクリプトと再デプロイメント・スクリプトを Solaris 上で実行すると失敗します。これは、スクリプトが sh シェルを使用して起動されることが原因です。

この問題を解決するには、以下のステップを実行します。 Korn (ksh) シェルまたは Bourne (bash) シェルを使用して、再配置スクリプトと再デプロイメント・スクリプトを実行してください。以下の手順に従います。

1. 次のコマンドを実行して sh のバックアップを作成します。

```
mv sh sh_old
```

2. 次のコマンドを実行して ksh のシンボリック・リンクを作成します。

```
ln -s ksh sh
```

3. sh を実行します。

検証エラーと例外の解決

生成された 0A1 にデータ検証エラーがある

0A1 仕様では、GlobalSupplyChainCode は XML に存在すると規定されています。着信 3A7 にこの値が含まれていない場合は、属性として 0A1 に追加する必要があります。GlobalSupplyChainCode は 3A7 文書に存在するか、または文書定義で属性として 0A1 に追加する必要があります。属性を追加するには、次の手順を実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「文書定義」をクリックします。コンソールにより「文書定義の管理」ウィンドウが表示されます。
2. 「パッケージ: RNIF」>「プロトコル: Rosettanet」>「文書タイプ: 0A1」の順にクリックして、「属性値の編集」アイコンをクリックします。
3. グローバル・サプライ・チェーン・コード属性がそこに存在しない場合は、「属性の追加」をクリックして追加します。
4. リストから値を選択します。
5. 「保存」をクリックします。

FTP スクリプト記述レシーバーの例外

クライアントが FTP サーバーに接続するたびに、ウェルカム・メッセージが送信されます。Pro FTP サーバーへの接続中に StringIndexOutOfBoundsException が発生した場合は、FTP サーバー用のウェルカム・メッセージからすべての空白行を削除するようにパートナーに要求してください。

エラー・シナリオ 以下の例は、ウェルカム・メッセージの空白行を示しています。

```
ftp myftp.mycompany.com Connected to myftp.mycompany.com 220-<blank line>.You have
connected to
myftp.mycompany.com FTP Server.<blank line>.Please enter userid
and password to login <blank line>220 MYC
OMPANY FTP Server ready.
User (myftp.mycompany.com:(none)):
```

有効なシナリオ 以下の例は、空白行を削除したウェルカム・メッセージを示しています。

```
ftp myftp.mycompany.com Connected to ftp myftp.mycompany.com
220-You have connected to myftp.mycompany.com FTP Server.
Please enter userid and password to
login 220 MYCOMPANY FTP
Server ready.
User (myftp.mycompany.com:(none)):
```

ユーザー出口クラスの `ClassNotFoundException`

以下のユーザー出口に必要なクラスが見つからない場合は、`ClassNotFoundException` エラーが発生することがあります。

1. 受信側ユーザー出口。
 2. カスタム・アクション・ユーザー出口。
 3. 送信側ユーザー出口。
- `ClassNotFoundException` エラーが発生した場合は、次の情報を確認してください。
 1. ユーザー出口が受信側ユーザー出口に関連している場合は、対応する jar またはクラスが以下のフォルダーのいずれかに存在することを確認します。
 - `<WebSphere Partner Gateway Install Dir>/Receiver/lib/userexits`
 - `<WebSphere Partner Gateway Install Dir>/Receiver/lib/userexits/classes`
 2. ユーザー出口が文書マネージャーに関連している場合は、対応する jar またはクラスが以下のフォルダーに存在することを確認します。
 - `<WebSphere Partner Gateway Install Dir>/Router/lib/userexits`
 - `<WebSphere Partner Gateway Install Dir>/Router/lib/userexits/classes`
 3. ユーザー出口の jar またはクラス・ファイルが正しいロケーションに存在する場合は、対応するユーザー出口共用ライブラリー内の項目が正しいことを確認します。

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. **WebSphere Application Server 管理コンソール**を開きます。
2. 「環境」>「共用ライブラリー」に移動します。
3. `BCG_RCVR_USEREXITS` および `BCG_ROUTER_USEREXITS` を探します。
4. これらの属性の共用ライブラリー情報を編集して、対応する jar またはクラスをクラスパスに追加します。

イベント 210031 の解決

コンソールを使用してハブを構成中に例外が発生した場合は、ロギング情報の一部として、コンソール・ログに例外が表示されます。例えば、既に存在するインタラクションの作成を試行した場合は、`SystemOut.log` ファイルに `VCBaseException` が出力されます。この例外はロギングの一部として受け入れ可能です。

スレッド停止警告の修正

スレッドが停止していることを示すメッセージが SystemOut.log に出力されることがあります。このメッセージの例を次に示します。

```
(/opt/IBM/bcghub/wasND/Profiles/bcgdocmgr/logs/  
bcgdocmgr/SystemOut.log)  
  
0000000f ThreadMonitor W WSVR0605W:  
Thread "WorkManager.BCGBPEWorkManager : 5" (00000055) has  
been active for 709464 milliseconds and may be hung.  
There is/are 15 thread(s) in total in  
the server that may be hung.
```

注: WebSphere Application Server は、一部のスレッドが停止している可能性があることを示す警告メッセージを表示します。ただし WebSphere Partner Gateway はこれらのスレッドを処理します。このメッセージを解決するには、レシーバー・サーバーの DocumentManager の下の以下のプロパティを変更します。

```
com.ibm.websphere.threadmonitor.interval = 0
```

この値は、「サーバー・インフラストラクチャー」>「管理」の「カスタム・プロパティ」にあります。

文書マネージャーの停止の例外

文書処理の進行中に文書マネージャー (サーバー) を停止した場合は、以下の例外メッセージが表示されますが、このメッセージは無視できます。

```
ExceptionUtil E CNTR0020E: EJB threw an unexpected (non-declared)  
during invocation of method "onMessage" on bean  
"BeanId(BCGBPE#ejb/bcgBpeEJB.jar#BPEMainEngineMDB, null)".  
  
Exception data: javax.ejb.TransactionRolledbackLocalException:  
; nested exception is: com.ibm.websphere.csi.CSITransactionRolledbackException:  
com.ibm.websphere.csi.CSITransactionRolledbackException:  
at com.ibm.ejs.csi.TranStrategy.commit(TranStrategy.java:742) at  
com.ibm.ejs.csi.TranStrategy.postInvoke(TranStrategy.java:181)  
at com.ibm.ejs.csi.NotSupported.postInvoke(NotSupported.java:99)  
at com.ibm.ejs.csi.TransactionControlImpl.postInvoke  
(TransactionControlImpl.java:581) at com.ibm.ejs.container.EJSContainer.  
postInvoke(EJSContainer.java:3876) at com.ibm.bcg.server.common.  
EJSLocalStatelessTransController_5c554616.  
onReceive(Unknown Source) at com.ibm.bcg.server.common.  
BaseMDB.onMessage(BaseMDB.java:194)
```

この例外が出力されても、以下の目標はすべて達成しています。

- 安全なりカバー
- 損失文書なし
- 重複文書処理なし
- パフォーマンス低下なし (再始動後)
- ハングアップ文書なし

java.security.InvalidKeyException: 正しくないキー・サイズまたはデフォルト・パラメーター

デフォルトでサポートされている暗号方式よりも強力な暗号方式を使用して PKCS12 ファイルをアップロードした場合、またはデフォルトではサポートされていない不正なキー・サイズのキーを使用した場合にこの例外がスローされます。このエラーを解決するには、法的に可能な場合に限り、強度無制限の暗号方式ポリシー・ファイルを入手してインストールします。「WebSphere Partner Gateway E/A ハブ構成ガイド」の暗号化強度の変更に関するセクションを参照してください。

WebSphere Partner Gateway がマップからユーザー出口を呼び出そうとしたときに ClassNotFoundException が発生する

WebSphere Partner Gateway の変換プログラム・コンポーネント (マップ) によって呼び出されるユーザー・プログラムまたは出口ルーチンがある場合は、新しいユーザー出口プロファイルを作成できます。WebSphere Partner Gateway がマップを呼び出し、そのマップがユーザー出口を呼び出す場合に、失敗してイベントが発生することがあります。

ユーザー出口 xxx に予期しない例外がありました:

```
java.lang.ClassNotFoundException:xxx
```

ユーザー出口 xxx.class は、WebSphere Partner Gateway が実行時にこのクラスを見つけることができるパスに存在しなければなりません。存在しない場合は、この例外が生成されます。

この問題を解決するには、次のステップを実行します。

1. SetupCmdLine.bat (bcglib\was\profiles\bcgconsole、bcgreceiver、または bcgdocmgr\bin の下にあり) の WAS_EXT_DIRS 変数の設定を確認します。例えば、次のようになります。

```
"SET WAS_EXT_DIRS=%JAVA_HOME%\lib;%WAS_HOME%\classes;%WAS_HOME%\lib;%WAS_HOME%\installedChannels;%WAS_HOME%\lib\ext;%WAS_HOME%\web\help;%ITP_LOC%\plugins\com.ibm.etools.ejbdeploy\runtime"
```

2. ユーザー出口 jar/class ファイルを、WAS_EXT_DIRS に定義されているパスの 1 つにコピーします (例えば、%WAS_HOME%\lib\ext にコピーします)。あるいは、この変数にパスを追加します。(例えば、ユーザー出口 jar/class が c:\myDir にある場合は、SET WAS_EXT_DIRS=...;c:\myDir とします)

注: このステップを実行した場合は、コンポーネントを再始動してください。

暗号化された文書の送信中に生成される構文解析エラーの解決

WebSphere Partner Gateway は、暗号化された文書の送信時に構文解析エラーを受け取る場合があります。構文解析エラーは、テキストがバイナリーであるが、WebSphere Partner Gateway がそのテキストを EDI として構文解析しようとしているときに発生します。

注: 平文では、何もエラーが生成されない可能性があります。

エラー・メッセージを以下に示します。

```
486 DEBUG [ASUnPackaging] [synchronous Thread 0] -  
>>set contenttype on business document =application/EDI-X12
```

問題を解決し、WebSphere Partner Gateway パーサーでテキストをバイナリーとして認識させるには、コンテンツ・タイプを application/octet-stream にする必要があります。

証明書の使用に関するエラーの処理

証明書チェーニング・エラー

CertPath を正常にビルドできるようにするには、証明書チェーンの各証明書を WebSphere Partner Gateway にアップロードする必要があります。CertPath の一部の証明書がロードされていないと、WebSphere Partner Gateway は以下の CertPath ビルド・エラーをスローします。

```
java.security.cert.CertPathBuilderException: PKIXCertPathBuilderImpl could  
not build a valid CertPath.; internal cause is:  
java.security.cert.CertPathValidatorException: The certificate issued by OU=Class 3  
Public Primary Certification Authority, O="VeriSign, Inc.", C=US is not trusted; i  
nternal cause is:  
java.security.cert.CertPathValidatorException: Certificate chaining error  
at com.ibm.security.cert.PKIXCertPathBuilderImpl.engineBuild(Unknown Source)  
at java.security.cert.CertPathBuilder.build(Unknown Source)  
at com.ibm.bcg.util.CertPathUtil.buildCertPath(CertPathUtil.java:454)  
at com.ibm.bcg.util.CertPathUtil.validateCertPathWithReset(CertPathUtil.java:189)  
at com.ibm.bcg.util.PKCS7Util.checkCertificateValidity(PKCS7Util.java:1490)  
at com.ibm.bcg.util.PKCS7Util.encryptBytesS(PKCS7Util.java:292)...
```

完全 CertPath のビルドを無効にするには、プロパティ `bcg.build_complete_certpath` を「False」に設定します。この値を使用する場合は、リーフと直接の発行者証明書のみをロードすれば十分です。

以下のステップを実行して、この問題を解決することもできます。

1. 「新しい証明書の作成」 ページで、パートナーの暗号化/デジタル署名のリーフ証明書を追加します。

注: Windows XP Professional では、以下のようにして発行者証明書を抽出できます。暗号化/デジタル署名のリーフ証明書の「全般」タブで、サブジェクトおよび発行者の情報 (例: 「Issued to: IBM_WPG_Support.ibm.com」 および 「Issued by: VeriSign Class 3 Security Server CA」) を確認できます。

- 「証明のパス」タブをクリックします。CA チェーンの完全なパスが表示されます。このチェーンでは「VeriSign Class 3 Security Server CA」を確認できますが、これは、ハブ・オペレーターの下にルート/中間としてロードする必要がある中間証明書です。
- 「証明書の表示」をクリックします。これにより、中間証明書「Issued by: Class Public Primary Certificate Authority」が表示されます。これがルート証明書です。
- 中間証明書を抽出するには、「詳細」タブをクリックして、「ファイルにコピー」をクリックします。
- 「証明書のエクスポート ウィザードの開始」で、「次へ」をクリックします。

- 「*DER encoded binary X.509 (.CER)*」形式を選択して、「次へ」をクリックします。
- 保存する証明書のパスおよびファイル名を参照または入力して、「次へ」をクリックします。「証明書のエクスポート ウィザードの完了」が表示されます。
- 「終了」をクリックします。これで、中間証明書をルート/中間としてハブ・オペレーター・プロファイルにアップロードする準備が整いました。

取り消し状況の失敗

CA は、取り消された証明書の取り消しリストを頻繁に発行します。証明書には、これらの CRL を CRL 配布ポイント・エレメントで取得するための URL が含まれています。デフォルトでは、WebSphere Partner Gateway の取り消しチェックは有効になっています。取り消し状況を判別できないと、エラーが発生します。

実行時に WebSphere Partner Gateway が URL にアクセスできない場合は、これらの CRL を WebSphere Partner Gateway 共通ファイル・システムのフォルダー `security/crl` に事前にダウンロードできます。

証明書取り消しチェックを無効にするには、プロパティ `bcg.checkRevocationStatus` に「false」を設定します。WebSphere Partner Gateway コンソールのイメージには、これらのプロパティを設定する必要があるロケーションが示されます。

通常、リーフから発行者証明書への `CertPath` をビルドするには、発行者およびサブジェクト DN が使用されますが、リーフ証明書に権限キー ID 拡張がある場合は、それを使用して `CertPath` がビルドされます。この場合、権限キー ID の `KeyID` 属性の値は、発行者証明書のサブジェクト・キー ID と同じでなければなりません。

`KeyID` 属性がないと、`CertPath` ビルド・エラーが発生します。IBM JDK では、これらのタイプの証明書を処理するためのパッチ APAR PK33715 がリリースされています。証明書取り消しリスト (CRL) は、プロバイダーによって取り消された証明書のリストです。CRL 配布ポイントには、CRL を取得するための URL があります。取り消し状況を判別できないと、エラーが発生します。

```
java.security.cert.CertPathValidatorException: The revocation status of the certificate with subject (CN=My Corp 1, OU=IBM Sales, O=IBM, L=Bangalore, C=IN) could not be determined.
```

URL にアクセスできない場合は、CRL を WebSphere Partner Gateway ファイル・システムの `/security/crl` に事前にダウンロードできます。

取り消しチェックを無効にするには、プロパティ `bcg.checkRevocationStatus` に「false」を設定します。

無視しても安全なメッセージ

WebSphere Partner Gateway ハブ・インストーラーのエラー・メッセージの解決

WebSphere Partner Gateway ランチパッドの実行中に、以下のようなエラーが表示される場合があります。

```
java.util.prefs.FileSystem
Preferences$3 run WARNING: Could
not create system preferences directory.
System preferences are unusable.
java.util.prefs.FileSystemPreferences
checkLockFile0ErrorCode WARNIN
NG: Could not lock System prefs.
Unix error code 270913688.
PM java.util.prefs.FileSystemPreferences
checkLockFile0ErrorCode WARNING: Could not
lock System prefs. Unix error code 270931432.
java.util
prefs.FileSystemPreferences checkLockFile0ErrorCode
WARNING: Could not lock System
prefs. Unix error code 270937824.
```

これらのメッセージは、無視しても差し支えありません。

bcgHubInstall.log に記録される DB パスワード必須エラー

WebSphere Partner Gateway ハブのインストール中に、インストーラーは `bcgHubInstall.log` に以下のエラー・メッセージを記録します。

```
com.ibm.bcg.install.ismp.wizard.conditions.JdbcDatabaseConnectCondition,
err, ERROR: dbPassword is required.
```

このエラー・メッセージが発生しても、何も影響はありません。サーバーは始動され、文書は正常に送信されます。このエラー・メッセージは、無視しても差し支えありません。

第 9 章 WebSphere Partner Gateway 管理のトラブルシューティング

この章では、WebSphere Partner Gateway の構成中または管理中に発生する可能性のある問題の解決策を説明します。

長い処理時間を回避するためのヒント

文書処理の時間が長いときに問題が発生する場合は、以下のヒントが役立つ場合があります。

暗号化された大容量文書の処理時間の長期化防止

GB 単位のサイズを扱える大容量ファイルのサポートが AS2 と AS3 に拡張されました。バージョン 6.1.1 以降では、バイト配列を使って処理される最大ファイル・サイズを構成できます。割り振られたメモリー量が使用可能ヒープ・サイズより大きいときは、OutOfMemoryError (メモリー不足エラー) が生じます。データのサイズが使用可能メモリーに満たない場合も、割り振られるメモリーにより使用可能メモリーの量が増加すると、やはり OutOfMemoryError が発生します。構成されているファイル・サイズがサポート可能かどうかは、実行時に使用可能ヒープ・メモリーに基づいて判別します。バイト配列で利用できる最大ファイル・サイズは、プロパティ `bcg.maximumFileSizeForByteArrays` を使用して指定することができます。

暗号化された大容量 AS 文書の処理時間の長期化防止

このタスクについて

暗号化された大容量の AS 文書を一部の低位モデルのハードウェア構成で処理すると、処理に長い時間がかかることがあります。遅延を防止するため、次の処置を行ってください。AS 圧縮属性を「はい」に設定して、送信する文書のサイズを小さくします。

メモリー不足エラーの回避

メモリー不足状態の原因となる可能性がある領域を以下に示します。

文書マネージャーのメモリー構成

この構成では、基本 Java アプリケーションにより作業用に割り当てられたメモリー量を指定します。

文書マネージャー・ワークロード

サブコンポーネントが利用できるスレッドの数を構成できます。構成されたスレッド数の値が大きいほど、重いワークロードがかかっている場合にすべての文書を処理するには、より多くのメモリーが必要になります。

処理中の文書の文書構造

文書構造によっては、文書 (特に大きな文書) の処理に必要なメモリーの量が増加することがあります。この影響を受ける領域は、セキュリティー (暗号化、暗号化解除、署名、および署名検証)、XML 変換処理ステップ、および検証処理ステップです (特に大きなテキスト値が含まれる文書の場合)。

文書マネージャーのパフォーマンスの向上

文書マネージャーのパフォーマンスを向上させるヒントを以下にいくつか示します。

文書マネージャーのメモリー構成を使用可能にする

パフォーマンスを向上させて、メモリー不足エラーを回避するには、WebSphere Partner Gateway コンポーネントの初期ヒープ・サイズおよび最大ヒープ・サイズを大きくします。

WebSphere Application Server 管理コンソールからヒープ・サイズを大きくするには、次のようにします。

1. 「アプリケーション・サーバー」にナビゲートします。
2. WebSphere Partner Gateway コンポーネントを選択します。
3. 「Java およびプロセス管理」>「プロセス定義」>「Java 仮想マシン」を選択します。
4. 「初期ヒープ・サイズ」と「最大ヒープ・サイズ」の値を更新します。
5. WebSphere Partner Gateway を再始動します。

文書マネージャーのワークロードを使用可能にする

システム・プロパティを設定して、複数のサブコンポーネントで使用する処理スレッドの数を構成できます。これらのプロパティのデフォルト値は小さく設定されていますが、管理者がこの値を変更している可能性があります。

文書マネージャーの高可用性構成のために必要な TCP 設定

この問題は、完全配布モード・インストールにおける WebSphere Partner Gateway V6.1 以降の高可用性セットアップで観察されます。高可用性セットアップでは、別々のシステムで稼働する文書マネージャーをクラスター化する必要があります。関係するシステムのいずれかがシャットダウンすると、いくつかの文書が処理されません。WebSphere Application Server SIB コンポーネントは、その内部操作に排他データベース・ロックを獲得します。いずれかのマシンがシャットダウンすると、獲得したデータベース・ロックは解放されません。データベース・ロックの解放は、TCP/IP 設定のシステム・レベルの構成に依存しています。この TCP/IP プロパティは、獲得したデータベース・ロックを 2 時間保持します (このプロパティのデフォルト値が 2 時間であるため)。

Windows オペレーティング・システムの場合、この TCP/IP プロパティの名前は KeepAliveTime です。AIX オペレーティング・システムの場合、このプロパティは、名前 TCP_KEEPIDLE によって参照されます。

- **Windows の場合:** TCP プロパティ「KeepAliveTime」の値には、より小さな値を設定する必要があります (約 60000 ミリ秒または 120000 ミリ秒)。詳しくは、<http://support.microsoft.com/kb/314053/> を参照してください。
- **AIX の場合:** TCP プロパティ「TCP_KEEPIDLE」の値には、より小さい値を設定する必要があります (約 60000 ミリ秒または 120000 ミリ秒)。詳しくは、http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/wasinfo/v6r0/index.jsp?topic=/com.ibm.websphere.nd.doc/info/ae/ae/tprf_tuneaix.html を参照してください。

データベースに関する問題のトラブルシューティング

エラーのタイプに応じて、該当するセクションを参照し、データベースに関する問題の解決方法を確認してください。

DB2 エージェント用の十分な仮想メモリの確保

これは WebSphere Partner Gateway ログに表示されるエラーであり、データベース・エージェントがソート処理に使用できる仮想メモリが不十分であることを示します。このエラーを解決するには、作成した WebSphere Partner Gateway データベースの SORTHEAP パラメーターの値を小さくします。ご使用の環境にこのパラメーターを設定する方法の詳細については、データベース管理者にお問い合わせください。

不十分な仮想メモリ・エラーの例を次に示します。

```
Error[DBChannelCheck] [main Thread 2] - Error in channel check for
com.ibm.bcg.channel.CheckChannelParameters@ebda9664
com.ibm.ejs.cm.portability.ResourceAllocationException: DB2 SQL error:
SQLCODE: -955, SQLSTATE:57011, SQLERRMC: null
```

```
ERROR [BPEEngine] [main Thread 2] - BPE:
```

```
ERROR [BPEEngine] [main Thread 2] -
java.lang.ArrayIndexOutOfBoundsException: 0
```

```
ERROR [BPEEngine] [main Thread 2] - Error closing
transConn.com.ibm.ejs.cm.exception.WorkRolledbackException: Outstanding
work on this connection which was not committed or rolledback by the user
has been rolledback.
```

データベース照会効率の最適化

RUNSTATS コマンドは、データベース照会のパフォーマンスを最適化します。このコマンドを実行すると、テーブルおよび索引ごとにデータベース照会アクセス・プランが更新されます。データベース照会効率を最適化するには、IBM WebSphere Partner Gateway のアプリケーションおよびデータベースのアクティビティーが最小のときに、週に 1 回以上 RUNSTATS を実行します。データベースのトラフィックの増加に従って、最高で 1 日に 1 回まで、RUNSTATS の実行頻度を上げてください。

注:

1. RUNSTATS コマンドを実行するときは、以下の点を考慮する必要があります。RUNSTATS を実行するとデータベース・システム情報が更新されるため、特定の環境ではロック・タイムアウトが発生する可能性があります。WebSphere

Partner Gateway アプリケーションを静止させ、データベースへのアクセスは RUNSTATS の実行のみに制限してください。

2. ロック・タイムアウトは、RUNSTATS および db2rbind が同時に実行される時に発生する場合があります。これらのコマンドは、毎日異なる時刻に実行することをお勧めします。

DB2 アクセス・プランを更新するもう 1 つの方法として、reorgchk コマンドを使用する方法があります。DB2 コマンド・ウィンドウから、以下のコマンドを実行します。

1. db2 connect to <database name>
2. db2 -v reorgchk update statistics on table all
3. db2 connect reset

注: この手順を開始する前に、すべての Websphere Partner Gateway コンポーネントを停止してください。reorgchk の完了後には、データベース・インスタンスの停止および再始動も行ってください。

Oracle 9i リリース 2 の使用時に文書が処理されない このタスクについて

Oracle 9i リリース 2 を使用している場合、文書が処理されず、BCGMAS メッセージング・エンジンのログに次のエラーが出力されることがあります。

```
J2CA0056I: The Connection Manager received a fatal connection error from the
Resource Adapter for resource datasources/bcgMASDS The exception displayed as
com.ibm.websphere.ce.cm.StaleConnectionException: No more data to read from socket:
java.sql.SQLException: No more data to read from socket
```

この問題を解決するには、Oracle 10g バージョンの JDBC ドライバーをインストールします。このドライバーによって、Oracle 9i と WebSphere Application Server メッセージング・エンジンの非互換性の既知の問題が軽減されます。

Oracle ユーザー・アカウントが、正しくない資格情報でロックされる

WebSphere Partner Gateway ハブのインストール時、Oracle データベース・アクセス用の資格情報を誤って指定すると、Oracle ユーザー・アカウントが自動的にロックされます。

この問題を解決するには、Oracle ユーザー・アカウントをアンロックしてから、WebSphere Partner Gateway ハブのインストールを続行します。Oracle ユーザー・アカウントをアンロックするには、以下のステップを実行します。

1. sqlplus プロンプトから sys ユーザーとして Oracle にログインします。
2. 以下のコマンドを実行します。

```
ALTER USER username ACCOUNT UNLOCK;
```

ここで **username** は、ロックされたユーザー・アカウントの名前です。

3. 正しいパスワードをインストーラーに入力して、続行します。

Oracle の例外のトラブルシューティング

SystemOut ログ・ファイルに以下の例外が記録される場合があります。

```
java.lang.NoClassDefFoundError: oracle.jdbc.driver.OracleLog
```

この問題を解決するには、ハブ所有者 (bcguser など) が Oracle JDBC ドライバー `ojdbc_X.jar` のパス全体に対して、読み取り権限と書き込み権限を所有する必要があります。を確認してください。

始動中のエラー・メッセージ

```
WebSphere Partner Gateway をシンプル配布モードでインストールした後にサーバーを始動すると、始動時に SystemOut.log に次のエラー・メッセージが記録されます。[10/24/08 11:45:11:437 UTC] 00000030 SessionContex I SESN0169I: Session Manager found Webcontainer custom property com.ibm.ws.webcontainer.invokefilterscompatibility with value true. [10/24/08 11:45:11:890 UTC] 00000030 VirtualHost I SRVE0250I: Web Module EHS3.01 has been bound to default_host[*:9080,*:80,*:9443,*:5060,*:5061,*:443,*: 55080,*:55443,*:58080,*:58443,*:54080,*:54443]. [10/24/08 11:45:12:015 UTC] 00000031 jdbc E Error while registering Oracle JDBC Diagnosability MBean.
```

```
javax.management.MalformedObjectNameException: Invalid character ' ' in value part of property at javax.management.ObjectName. construct (ObjectName.java:544) at javax.management.ObjectName.<init> (ObjectName.java:1312) at oracle.jdbc.driver.OracleDriver. registerMBeans(OracleDriver.java:303) at oracle.jdbc.driver.OracleDriver$.1.run(OracleDriver.java:213) at java.security.AccessController.doPrivileged(AccessController.java:197) SystemOut.log ファイルにストリング「InternalOracI DSRA8206I: JDBC driver version : 11.1.0.6.0-Production」が含まれている場合は、パッチ済みの ojdbc.jar ファイルをダウンロードする必要があります。ストリングの末尾にある正符号 (+) は、このパッチ済みファイルを既に実行していることを示します。パッチ済みの ojdbc.jar ファイルは、Oracle のサイト http://www.oracle.com/technology/software/tech/java/sqlj\_jdbc/htdocs/jdbc\_111060.html からダウンロードできます。
```

ハブが RHEL プラットフォームで始動した場合は、次のエラーが発生します。

```
[11/19/08 15:55:24:187 UTC] 00000027 J 2CUtilityCla E J2CA0036E: An exception occurred while invoking method setDataSourceProperties on com.ibm.ws.rsadapter.spi.WSManagedConnectionFactoryImpl used by resource datasources/bcgDocMgrDS : com.ibm.ws.exception.WsException: DSRA0023E: The DataSource implementation class "oracle.jdbc.xa.client.OracleXADataSource" could not be found.
```

この問題は、Oracle にアクセスするために作成された JDBC データ・リソースはアクセス権が原因で `ojdbc14.jar` を取得できない場合に発生します。

この問題を解決するには、次のステップを実行します。

1. ojdbc14.jar を /home/bcguser にコピーします。
2. 管理コンソール (例: http://ipaddress:55090/admin) にログインします。
3. 「リソース」>「JDBC プロバイダー」にナビゲートして、「WebSphere Partner Gateway Oracle プロバイダー」を選択します。
4. クラスパスを /home/bcguser/ojdbc14.jar に変更します。
5. ノード・エージェントを停止して、完全配布モードの場合はクラスターを再始動し、シンプルまたはシンプル配布モードの場合はサーバーを再始動します。

データベースが停止したときの文書処理

WebSphere Partner Gateway が文書を処理しているときに、データベースが停止すると、文書は「処理中」状態のままとなり、メッセージが `datalogerrorQ` に移動します。データベースが作動したら、メッセージを `datalogerrorQ` から元の場所に移動して文書処理を続行するために、バッチ・ファイル `reprocessDbLoggingErrors.bat` (WebSphere Partner Gateway_HOME/bin の下にあります) を実行する必要があります。

文書構造

外部パートナーまたは内部パートナー (バックエンド・アプリケーション) から大きな文書を受信することがあります。文書サイズを削減する方法があるかどうか (バッチ・サイズの削減または小さな文書の使用など) を判別します。

文書処理の問題のトラブルシューティング

文書処理に関して問題がある場合は、このセクションが役立つ場合があります。

ラージ・ファイルのファイル・サイズ設定

ファイル・サイズが `bcg.maximumFileSizeForByteArrays` に指定されたこのプロパティー値よりも大きい場合、ファイルはストリームを使用して処理されます。ファイル・サイズがこのプロパティーに指定された値よりも小さい場合は、十分な空きメモリーがないと、エラー・イベント `BCG210050` が生成されます。

ハブ・オペレーターとしてログインしたら、「システム管理者」>「共通属性」にナビゲートしてください。`bcg.maximumFileSizeForByteArray` プロパティーのデフォルト値を上書きして、バイト配列に使用する最大ファイル・サイズを指定します。パフォーマンスを改善するには、このプロパティーの値を増加してください。

メモリー不足エラーを避けるには、非常に大きいファイルがバイト配列ではなくストリームを使用して処理されるように、プロパティー

`bcg.maximumFileSizeForByteArrays` の値を設定する必要があります。例えば RAM サイズが 512 MB の場合、`bcg.maximumFileSizeForByteArrays` プロパティーの値は 20 MB に設定できます。そうすると、20 MB より大きいサイズの文書はすべて、バイト配列を使用せずにストリームを使用して処理されるようになります。また、20 MB より小さいサイズの文書は、メモリー内で処理されるようになります。

文書マネージャー・サーバーへのネットワーク接続が突然失われるか、サーバーが異常シャットダウンすると、文書が 2 回送信される

状況がまだ更新されていない文書の処理中に、文書マネージャーを実行しているシステムへのネットワーク接続が突然失われた場合またはシステムがシャットダウンした場合は、文書が 2 回送信される可能性があります。

EDI レポートが最初の 1000 レコードのみをエクスポートする

EDI レポート (FA 期限経過および拒否トランザクション) を使用してレポートをエクスポートする場合、これらのレポートのエクスポート機能では、最初の 1000 件のレコードのみがエクスポートされます。これは、メモリー・オーバーフローの問題によって予期しないシステム・シャットダウンが発生するのを最小限に抑えるためです。レポートから 1000 を超える多数のレコードをエクスポートする場合は、関連するデータベース・ビュー LG_EDI_Overdue_FA_VW または LG_EDI_Rejected_Tx_VW からレコードを直接エクスポートします。

WebSphere Partner Gateway によるパートナー・トランザクションの処理の防止

2 つの特定のパートナー間での文書処理を防止する場合、WebSphere Partner Gateway 管理者は、これらの特定のパートナー用に作成された接続を WebSphere Partner Gateway コンソールの「接続」で非アクティブにする必要があります。「パートナー・プロファイル」を無効にすると、エンティティーが「パートナー接続」メニューにリストされなくなりますが、そのパートナーとコミュニティー・マネージャー間のアクティブなチャンネルは切断されません。

文書の伝送パフォーマンスの低下の防止

このタスクについて

WebSphere Partner Gateway 文書伝送時間は、最大で 40 分まで急激に増加することがあります。この原因は、DB2 内のデフォルト・バッファー・サイズの定義が小さすぎるために、処理中の文書がキューに追加されることにあります。

バッファー・サイズを拡張するには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」>「プログラム」>「IBM DB2」>「コマンド行ツール」>「コマンド行プロセッサ」の順に選択して、DB2 コマンド行プロセッサを開きます。
2. 次のコマンドを使用して、データベースに接続します。

```
DB2 > connect to bcgapps user <username> using <password>
```
3. 次のコマンドを使用して、バッファー・サイズを拡張します。

```
DB2 alter bufferpool buff32k immediate size 12500
```

これにより、特定のバッファー・サイズが 500 (デフォルト) から 12500 に拡張されます。

2 GB より大きい文書のファイル・サイズのレポート

文書のサイズが 2 GB より大きい場合に、WebSphere Partner Gateway の文書ビューアーで、ファイルの長さが 0 KB と示されることがあります。この原因は、データベースのデータ型の最大サイズ制限にあります。

ヒープ・サイズの増加

このタスクについて

サイズが 50MB の多数の文書 (約 40 件) を暗号化、署名、および圧縮して AS3 経由で送信するときは、ヒープ・サイズを大きくする必要があります。ヒープ・サイズを大きくしないと、文書が OutOfMemory エラーで失敗する場合があります。

このエラーは、作業メモリーが不十分で、WebSphere Partner Gateway が文書を大量に送信できないときに発生します。したがって、ヒープ・サイズを大きくすることが推奨されます。DocMgr サーバーのヒープ・サイズ・パラメーターの値を増加するには、次の手順を実行します。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールにログインします。
2. WebSphere Application Server 管理コンソールで bcgDocMgr サーバーの「Java およびプロセス管理」>「プロセス定義」>「Java 仮想マシン」を選択します。
3. 「初期ヒープ・サイズ」を 1024 に設定します。
4. 「最大ヒープ・サイズ」を 1536 に設定します。システムに 2GB より多くある場合は、最大ヒープ・サイズを 1536 よりも大きい値に設定できます。

複数ルーターを使用している場合の重複文書配信の回避

大量の文書を処理する (例えば、24 時間で処理する文書数が 10 万を超える) 場合、重複する文書が UNIX 環境のゲートウェイに配信される可能性があります。このような重複は、複数のルーター・インスタンスが使用されており、UNIX 環境で共通ファイル・システムがマウントされている場合に発生します。

この問題を解決するには、各ルーター・インスタンスの WebSphere 変数に、以下の属性を組み込みます。

1. `bcg.dm.checkFileLatency=true`
2. `bcg.dm.latencyWaitTime=3000`

必要な *.rpt ファイルが作成されないときの問題の処理

コンソール・パス「システム管理」>「機能の管理」>「EDI プロパティ」で特定の EDI 属性トレース (`traceLevel.FTP-Scripting=2` など) をオンにした場合に、必要なロギング「rpt」ファイルが <WebSphere Partner Gateway インストール・パス>¥wasND¥Profiles¥bcgprofile¥logs フォルダーに作成されません。

この問題を解決するには、その特定の EDI 属性トレースをオン にするとともに、同じコンソール・パネルで `transcript.file.option` 属性の値を「はい」に設定します。デフォルト値は「いいえ」です。

レシーバーが異常終了した場合の文書処理に関する問題の解決

文書の処理中にレシーバーが異常終了した場合は、いくつかの文書が未処理のままになります。これらの文書は、<hub-installed path >>%common%receiver%reject ディレクトリー、またはファイル・レシーバーの文書ルート・パスにあります (文書の拡張子は bcg_tmp です)。この問題は、単一のレシーバーと複数のレシーバーの両方のデプロイメントにおいて観察されます。

この問題を解決するには、次のステップを実行します。

レシーバーが異常終了した場合、未処理の文書は、<hub-installed path >>%common%receiver%reject ディレクトリー、またはファイル・レシーバーの文書ルート・パスにあります (文書の拡張子は bcg_tmp です)。これらのファイルに対して、以下のステップを実行する必要があります。

1. ファイル・レシーバーの文書ルート・パスに移動します。
2. ファイル拡張子の名前を元の拡張子の名前に変更します。

レシーバーが動作するようになると、これらのファイルは正常に処理されます。

複数言語のデータの照合

WebSphere Partner Gateway は、以下のデータベースに依存してデータを照合します。ご使用のインストール・システムが複数言語をサポートしていて、ユニコード・データが正しくソートされない場合は、このセクションの内容を検討してください。

DB2

6.0 以降のバージョンでは、WebSphere Partner Gateway は UCA400_NO 照合設定を使用するように DB2 を構成します。DB2 バージョン 8.2 は、すべての言語に対してすべての特殊な場合 (ユニコード標準バージョン 4.00 技術標準 #10 で説明) をサポートしているわけではありません。このような場合は、DB2 に直接接続してください。

Oracle

Oracle データベースでは、照合シーケンスに応じた動的変更を使用します。この機能を使用するため、WebSphere Partner Gateway は NLS_SORT セッション変数の値を現行ユーザーのロケールに応じて変更します。

表 1. ロケール情報

ブラウザーのロケール	言語	NLS_SORT 値
pt_BR	ブラジル/ポルトガル	BINARY
zh	中国語	SCHINESE_RADICAL_M
en_US	英語	BINARY
fr	フランス語	FRENCH_M
de	ドイツ語	XGERMAN
it	イタリア語	BINARY
ja	日本語	JAPANESE_M

表 1. ロケール情報 (続き)

ブラウザのロケール	言語	NLS_SORT 値
ko	韓国語	KOREAN_M
es	スペイン語	SPANISH_M
zh_TW	中国語 (繁体字)	TCHINESE_RADICAL_M
その他	その他	BINARY

IBM サービス・ログのトラブルシューティング

WebSphere Partner Gateway の以前のリリースでは、テキスト・エディターまたは `more` コマンドを使用してログを表示できました。現行リリースのいくつかのログは、バイナリー・フォーマットであるため、テキスト・エディターまたはコマンド行からの `more` コマンドを使用して読むことができません。

これらの方法のいずれかを使用して出力した保守ログが文字化けしていた場合は、ツールがあるワークステーションから次のような `showlog` コマンドを発行して、保守ログをバイナリー・フォーマットからプレーン・テキストに変換します。

`showlog -format CBE-XML-1.0.1 filename` (`filename` は、サービス・ログ・ファイルのファイル名です)。サービス・ログがデフォルト・ディレクトリーに入っていない場合は、サービス・ログ・ファイル名を完全に修飾する必要があることに注意してください。 `Showlog` コマンドでは、Common Base Event XML 形式で出力が生成されます。

レシーバー・タイムアウト設定の増加

このタスクについて

パートナーが WebSphere Partner Gateway への接続を開いたときに、エラー・メッセージ「ピアによって接続が打ち切られました。ソケット書き込みエラー (Connection aborted by peer: socket write error)」を受け取った場合、WebSphere Partner Gateway レシーバーは、パートナーからの伝送速度が遅いため、タイムアウトを開始します。

WebSphere Application Server 管理コンソールで次の手順を実行します。

1. 「アプリケーション」にナビゲートします。
2. WebSphere Partner Gateway レシーバー・コンポーネントを選択します。
3. 「Web コンテナ」 > 「Web コンテナ・トランスポート・チェーン」を選択します。
4. WebSphere Partner Gateway レシーバー・ポートのタイムアウト設定を変更します。

サーバーの再始動後にコンソールが開始しない

WebSphere Partner Gateway のインストール後、コンソール・サーバーを始動して、コンソールに正常にログインし、その後にサーバーを再始動すると、コンソールが表示されないことがあります。これは、トレース・レベルが **WAS.*=finest** に設定されているためです。この設定は、すべての WebSphere Application Server 関連クラスの最も詳細なログを実行するために使用されます。WebSphere Partner Gateway コンソールの開始のデフォルト接続タイムアウトは、180 秒に設定されています。WebSphere Application Server トレース・レベルが *finest* に設定されていると、必要なデータベース接続の処理に加えて、すべての情報のログを記録する処理に時間がかかるために、システムがタイムアウトになります。この設定を変更し、コンソール・サーバーを再始動します。

注: トレース・レベルを *finest* に設定すると、システム・パフォーマンスに影響することがあります。

レシーバーが構成ファイルの読み取りに失敗した

レシーバーが構成ファイルの読み取りに失敗した場合は、以下のエラー・メッセージが表示されます。

```
Unable to update the Receiver Config file java.io.IOException: A file or directory in the path name does not exist.
```

このエラーは、WebSphere Partner Gateway レシーバーが開始され、データベースへの接続がなく、BCGReceiverConfiguration.xml ファイルからの構成情報の読み取りを試行しているときに発生します。BCGReceiverConfiguration.xml ファイルは、コンソールの「システム管理」ページ上の `bcg.receiver.configpath` 属性で指定されたフォルダーに格納されています。

`bcg.receiver.configpath` に正しいパスが指定されていることを確認してください。

アラート通知を受信するユーザーの構成

WebSphere Partner Gateway コンソールの「システム管理」ページで SMTP 構成が指定されていない場合、文書マネージャーは必要な SMTP 構成を見つけられないため、構成されたアラートはユーザーに送信されません。

アラートを構成するには、以下の 2 つの属性の値を更新します。

1. 「システム管理」 > 「DocMgr の管理」 > 「アラート・エンジン」 ページで、`bcg.alertNotifications.mailHost` 属性を更新します。
2. 「システム管理」 > 「DocMgr の管理」 > 「デリバリー・マネージャー」 ページで、`bcg.delivery.smtpHost` 属性を更新します。

オプションとして、属性 `bcg.alertNotifications.mailFrom` および `bcg.alertNotifications.mailReplyTo` の値を変更できます。

データベースへのログ記録に失敗したイベントおよびビジネス文書の再処理

WebSphere Partner Gateway がデータベースにイベントまたは文書の状況を記録できないと、データは DATALOGERRORQ キューに入れられ、後で問題が解決したときに再処理できるようになります。

ログ記録に失敗したこれらのイベントおよび文書を再処理するには、手動ユーティリティー `reprocessDbLoggingErrors.sh` を使用します。このユーティリティーを実行すると、DATALOGERRORQ キューにあるすべてのイベントおよび文書はデキューされ、DATALOGQ キューに再キューイングされます。これにより、DocumentLogReceiver はイベントおよび文書のログを再度データベースに記録できます。

このユーティリティーは、DATALOGERRORQ にある既存のすべてのイベントおよび文書を処理した後、停止します。ログ記録に失敗したイベントや文書は、再度 DATALOGERRORQ に入れられます。ただし、今回の場合、イベントまたは文書が再処理されるのは 1 回のみです（つまり、ユーティリティーは失敗したイベントや文書のエンドレス・ループには入りません）。

`reprocessDbLoggingErrors.sh` または `reprocessDBLoggingErrors.bat` ユーティリティーを実行するには、次の手順を実行します。

1. 次のように入力して、すべてのルーターの `reprocessDbLoggingErrors.sh` ですべての変数が正しく定義されていることを確認します。

```
REPROCESSOR_HOME=Document Manager installation root
JAVA_HOME=$REPROCESSOR_HOME/java
LOG_REPROCESSOR_CLASSES=$REPROCESSOR_HOME/classes
```

2. コマンド行から次のようにユーティリティーを実行します。

```
./reprocessDbLoggingErrors.sh または reprocessDBLoggingErrors.bat
```

WebSphere Partner Gateway が javacore を生成した場合の WebSphere Application Server 内での JIT の無効化

WebSphere Partner Gateway コンポーネント（レシーバー、文書マネージャー、またはコンソール）が異常終了し、javacore を生成した場合、この原因は一般に、Java JIT (Just-In-Time) コンパイラーで発生した問題にあります。この動作が発生する場合は、WebSphere Application Server 管理コンソールから JIT を使用不可にします。WebSphere Application Server から JIT を使用不可にするには、次のようにします。

1. **WebSphere Application Server 管理コンソール**にログオンします。
2. 「サーバー」の下で、「サーバー」をクリックし、「**WebSphere Partner Gateway サーバー**」を選択します。
3. 構成ページ上で、「**Java およびプロセス管理**」>「**プロセス定義**」を選択します。
4. 「追加プロパティ」で、「**Java 仮想マシン**」を選択します。
5. 「**JIT を使用不可にする**」チェック・ボックスを選択します。

カスタム・トランスポート・タイプの定義

カスタム・トランスポート・タイプを定義するときには、URI という名前の属性を作成しないでください。これは、WebSphere Partner Gateway の予約キーワードと競合します。このような属性を作成すると、そのトランスポート・タイプの宛先を作成、保存することができなくなります。

例えば、<tns2:AttributeName>URI</tns2:AttributeName> は使用しないでください。

C: 以外のドライブ上での WebSphere Partner Gateway の作成

WebSphere Partner Gateway ファイル・ディレクトリーの宛先アドレスが C 以外のドライブに定義されている場合、WebSphere Partner Gateway は以下のエラーを返します。

宛先ディレクトリーが存在しません (Destination Directory does not exist)

コンソールは、このファイル・ディレクトリー宛先の作成を受け入れますが、以下のようなランタイム・エラーが生成されます。

```
844 INFO [FileSender] [Gw_1_2] -  
Exception in delivering the message in first attempt.  
Exception is: java.lang.Exception: Destination directory '/wsi_gateway/inbound/tradingpartner01';  
does not exist at com.ibm.bcg.delivery.FileSender.getFileSystemProperties(FileSender.javA:244)
```

```
844 ERROR [SenderFramework] [Gw_1_2] - First attempt failed  
: reason: java.lang.  
Exception : Destination directory '/wsi_gateway/inbound/tradingpartner01' does  
not exist
```

C: 以外のドライブ上のフォルダーを定義するには、スラッシュを 2 つではなく 3 つ使用します。例えば、次のようになります。

```
file:///d:¥HubMgrGateway
```

SSL トランザクションに関する問題のトラブルシューティング

SSL トランザクションの問題を解決するためのヒントを以下にいくつか示します。

SSL トランザクションを実行するための CRL のダウンロード このタスクについて

CRL が使用不可である場合、証明書を使用しているときに SSL トランザクションが失敗することがあります。問題が存在する場合、証明書を使用している SSL トランザクションは、以下のエラー・イベントを発行して失敗します。

BCG240024: 「CertPath の検証が失敗しました」

イベント 240024 のルーター・ログは、証明書の取り消し状況を判別できなかったことを示しています。

このエラーを解決するには、次のステップを実行します。

1. 認証局サイトから CRL リストをダウンロードします。これは、証明書の「詳細」タブの「CRL 配布ポイント」フィールドに指定されているか、認証局のダウンロード・サイトで使用できるようになっています。

例: `http://SVRSsecure-crl.verisign.com/SVRTrialRoot2005.crl`

2. CRL を WebSphere Partner Gateway `common/security/crl` フォルダにコピーします。

注: あるいは、CRL DP を使用して 実行時に CRL DP から CRL を取得できます。

SSL 接続のためのテスト・パートナー接続の修正

Gateway https URL が選択されている場合にツール/テスト・パートナー接続が失敗すると、以下のエラー・メッセージが表示されます。

```
HTTP 中の例外 POST-: null
```

このエラーは、POST または GET のいずれかのコマンドを使用しているときに発生することがあります。

コンソール・ツール/テスト・パートナー接続は、HTTP でのみ有効です。

証明書が受信されないことによる SSL ハンドシェークの失敗 このタスクについて

この問題は、パートナーと WebSphere Partner Gateway の間での SSLHandShake 実行中に発生します。クライアント認証で SSL を使用してパートナーへ送信するとき、およびパートナーから認証局証明書のリストが送信されない場合、WebSphere Partner Gateway の SSL クライアントはクライアント証明書を送信しません。これが原因でハンドシェークが失敗します。

このハンドシェーク失敗を解決するには、インストールされている WebSphere Application Server の `java.security` ファイルを変更します。このファイルは **<WAS インストール・ディレクトリ>** `>%java%lib%security` ディレクトリにあります。

注: UNIX システムでは、円記号 (¥) の代わりにスラッシュ (/) を使用してください。 `java.security` ファイルでのプロバイダーのデフォルトの順序は次のとおりです。

```
security.provider.1=com.ibm.crypto.provider.IBMJCE security.provider.2=com.ibm.jsse
.IBMJSSEProvider security.provider.3=com.ibm.jsse2.IBMJSSEProvider2 security.provid
er.4=com.ibm.security.jgss.IBMJGSSProvider security.provider.5=com.ibm.security.cer
t.IBMCertPath #security.provider.6=com.ibm.crypto.pkcs11.provider.IBMPKCS11
```

`java.security` ファイルで、IBMJSSE プロバイダーの前に IBMJSSE2 プロバイダーを配置します。次に例を示します。

注: `java.security` ファイルの順序変更後に WebSphere Application Server フィックスパックをインプリメントすると、変更した内容が上書きされるため、再度ファイルで順序を変更する必要があります。

```
security.provider.1=com.ibm.crypto.provider.IBMJCE security.provider.2=com.ibm.jsse2.IBMJSSEProvider2 security.provider.3=com.ibm.jsse.IBMJSSEProvider security.provider.4=com.ibm.security.jgss.IBMJGSSProvider security.provider.5=com.ibm.security.cert.IBMCertPath #security.provider.6=com.ibm.crypto.pkcs11.provider.IBMPKCS 11
```

java.security ファイルの変更後に、WebSphere Partner Gateway サーバー (bcgconsole、bcgreceiver、および bcgdocmgr) を再始動します。

証明書取り消しリスト (CRL) が無効であることが原因で SSL 接続が失敗する

WebSphere Partner Gateway がゲートウェイ・サーバーとの SSL ハンドシェイクに失敗し、以下のエラー・メッセージが bcg_router.log に発行されます。

```
ERROR [SSLPoster] [Gw_2_0] - com.ibm.bcg.util.BcgException: Certpath is not valid
```

通常、上記のエラーの前には、以下のデバッグ・ステートメントがあります。

```
DEBUG [CertPathUtil] [Gw_22_2] - Verifying the certification path ...
DEBUG [CertPathUtil] [Gw_22_2] - CertPathValidatorException : The revocation status of the certificate with subject (CN=xxx.yyy.zzz, OU=Terms of use at www.verisign.com/rpa (c)00, OU=aaa, O=bbb, L=ccc, ST=ddd, C=ee) could not be determined.
```

この問題は、CRL 検査は有効であるが、以下のいずれかの理由で WebSphere Partner Gateway が certpath の検証に失敗したときに発生します。

1. `<WPG_install_path>%common%security%crl` にあるローカルの CRL にアクセスできない。
2. 証明書で指定された URL 経由でリモートの CRL にアクセスできない。
3. URL にはアクセスできたが、参照された CRL を特定の配布ポイントで見つけることができない。

この問題は、以下のいずれかの方法で対処できます。

1. ローカル: `<WPG_install_path>%common%security%crl` で CRL を使用可能にする。
2. リモート: bcgSetCRLDP.jacl スクリプトを実行して、CRL 配布ポイントを有効にする。

詳しくは、「E/A ハブ構成ガイド」の 13 章にある『CRL 配布ポイントへのアクセスの有効化 (Enabling access to CRL distribution points)』セクションを参照してください。

WebSphere Partner Gateway 4.2.1 および 6.0 を使用していて、上記の解決策でエラーが解決しない場合は、以下に示すレシーバーとルーターの両方のプロパティ・ファイルで、取り消しチェックの設定プロパティを無効にします (bcg.checkRevocationStatus=false)。

レシーバー: `<WPG_install_path>%bcghub%receiver%lib%config%bcg_receiver.properties`

ルーター: `<WPG_install_path>%bcghub%router%lib%config%bcg.properties`

注: WPG 6.1 以降のバージョンが使用されている場合は、システム管理プロパティに、コンソールを使用してプロパティを設定します。必ず、証明書が取り消された場合はその証明書を使用しないでください。トラブルシューティングおよびデバッグを行う場合は、bcg.checkRevocationStatus を false に設定します。

SSL 接続でテスト参加者接続が機能しない

POST コマンドまたは GET コマンドを使用してゲートウェイ HTTP URL を選択すると、コンソールのツール/テスト参加者接続が失敗し、「Exception during http POST:-null」というエラー・メッセージが出されます。この理由は、コンソールのツール/テスト参加者接続は HTTP とともにしか動作しないからです。

コンソールのツール/テスト参加者接続は、HTTP でのみ使用することに注意してください。

注: テスト参加者接続機能は、接続パラメーターが不要な HTTP とともに動作します。

WebSphere Process Server 内の JMS エクスポート/インポートでのデータ・バインド

WebSphere Process Server 内の JMS エクスポート/インポートで WebSphere Partner Gateway データ・バインドを使用するときに、間違った情報または不適切な情報を提供するメッセージがいくつかあります。WebSphere Process Server 内の JMS エクスポート/インポートで WebSphere Partner Gateway データ・バインドを使用するときには、以下のメッセージが出力されます。

```
00000080 SystemOut 0 <<com.ibm.bcg.dataBinding.Utility>>
warning : Error in the element JMS-IBM-MessageTypeMsg :
Class 'BCGPackagingHeaders' does not have a feature named 'JMS-IBM-MessageType'
```

```
00000080 SystemOut 0 <<com.ibm.bcg.dataBinding.Utility>>
warning : Error in the element JMS-IBM-PutTimeMsg :
Class 'BCGPackagingHeaders' does not have a feature named 'JMS-IBM-PutTime'
```

```
00000080 SystemOut 0 <<com.ibm.bcg.dataBinding.Utility>>
warning : Error in the element JMS-IBM-Character-SetMsg :
Class 'BCGPackagingHeaders' does not have a feature named 'JMS-IBM-Character-Set'
```

```
00000080 SystemOut 0 <<com.ibm.bcg.dataBinding.Utility>>
warning : Error in the element JMSXDeliveryCountMsg :
Class 'BCGPackagingHeaders' does not have a feature named 'JMSXDeliveryCount'
```

```
00000080 SystemOut 0 <<com.ibm.bcg.dataBinding.Utility>>
warning : Error in the element JMS-IBM-EncodingMsg :
Class 'BCGPackagingHeaders' does not have a feature named 'JMS-IBM-Encoding'
```

```
00000080 SystemOut 0 <<com.ibm.bcg.dataBinding.Utility>>
warning : Error in the element JMS-IBM-PutApp1TypeMsg :
Class 'BCGPackagingHeaders' does not have a feature named 'JMS-IBM-PutApp1Type'
```

```
00000080 SystemOut 0 <<com.ibm.bcg.dataBinding.Utility>>
warning : Error in the element JMSXGroupSeqMsg :
Class 'BCGPackagingHeaders' does not have a feature named 'JMSXGroupSeq'
```

```
00000080 SystemOut 0 <<com.ibm.bcg.dataBinding.Utility>>
warning : Error in the element JMS-IBM-System-MessageIDMsg :
Class 'BCGPackagingHeaders' does not have a feature named 'JMS-IBM-System-MessageID'
```

```
00000080 SystemOut 0 <<com.ibm.bcg.dataBinding.Utility>>
warning : Error in the element JMSXGroupIDMsg :
Class 'BCGPackagingHeaders' does not have a feature named 'JMSXGroupID'
```

```
00000080 SystemOut 0 <<com.ibm.bcg.dataBinding.Utility>>
warning : Error in the element x-out-filenameMsg :
```

```

Class 'BCGPackagingHeaders' does not have a feature named 'x-out-filename'

00000080 SystemOut 0 <<com.ibm.bcg.dataBinding.Utility>>
warning : Error in the element JMS-IBM-PutDateMsg :
Class 'BCGPackagingHeaders' does not have a feature named 'JMS-IBM-PutDate'

00000080 SystemOut 0 <<com.ibm.bcg.dataBinding.Utility>>
warning : Error in the element JMSXUserIDMsg :
Class 'BCGPackagingHeaders' does not have a feature named 'JMSXUserID'

00000080 SystemOut 0 <<com.ibm.bcg.dataBinding.Utility>>
warning : Error in the element JMS-IBM-FormatMsg :
Class 'BCGPackagingHeaders' does not have a feature named 'JMS-IBM-Format'

00000080 SystemOut 0 <<com.ibm.bcg.dataBinding.Utility>>
warning : Error in the element JMSXAppIDMsg :
Class 'BCGPackagingHeaders' does not have a feature named 'JMSXAppID'

```

固定ワークフロー・ハンドラーの Content-Types 属性の構成

WebSphere Partner Gateway で、HTTP を介して受信した EDI 文書の送信が失敗することがあります。content-type を text/plain として EDI 文書を送信する場合は、固定ワークフロー・ハンドラーが正しく構成されているようにしてください。Content-Types 属性を構成するには、次の手順を実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「固定ワークフロー」>「インバウンド」に移動します。
2. **com.ibm.bcg.server.ChannelParseFactory** をクリックします。
3. 「編集」をクリックします。
4. 構成済みリストで *EDIRouterBizProcessHandler* を選択し、「構成」をクリックします。
5. Content-Types 属性を編集して、ハンドラーごとに固有の content-type を変更します。例えば、前のステップでは、EDI ハンドラーを編集し、文書を EDI として処理しました。1 つのハンドラーに複数のコンテンツ・タイプを組み込むには、値をコンマで区切ります。

以下のハンドラーは、コンテンツ・タイプのデフォルト・リストと共に取り込まれます。

- BinaryChannelParseHandler
- XMLRouterBizHandler
- EDIRouterBizProcessHandler
- cXMLChannelParseHandler

コンテンツ・タイプを変更するには、次のステップを実行します。

1. 「ハブ管理」>「ハブ構成」>「固定ワークフロー」>「インバウンド」に移動します。
2. **com.ibm.bcg.server.ChannelParseFactory** をクリックします。
3. 「編集」をクリックします。
4. 構成済みのリストで、ハンドラーを選択し、「構成」をクリックします。
5. Content-Types 属性を編集して、新規コンテンツ・タイプを追加します。これらのコンテンツ・タイプ値は、コンマで区切る必要があります。

注: 特に推奨される場合を除いて、これらのコンテンツ・タイプ値は変更しないことをお勧めします。

取り消しチェックの使用および CRLDP サポートの使用

CRL が使用不可のときは、取り消し状況を判別できないため、certpath 検証が失敗します。この問題を回避するために、CRL をローカル・フォルダーで使用可能にするか、または CRL 配布ポイント (CRLDP) から CRL を自動的に取得することができます。

CRL を CRLDP から取得する場合は、CRLDP サポートを有効にします。CRLDP へのアクセスでプロキシ・サーバーを使用する場合は、プロキシ・サーバー・ホストとポートも提供する必要があります。自己署名証明書に対しては、取り消しチェックは実行されません。

文書ボリューム・レポートの検索に関する問題の解決

このタスクについて

文書ボリューム・レポートの検索を WebSphere Partner Gateway で実行しても、コンソールに関する検索結果の情報が表示されない場合があります。「この検索条件に該当する結果はありませんでした。」という典型的なメッセージがページに表示されません。ページは明滅するだけで、何の情報も表示されません。この問題は、ブラウザー・ポップアップ・ブロッカーが結果ページ (ポップアップ・ページ) の表示をブロックしているために発生します。ポップアップ・ブロッカーをオフにすると、ページは正しく表示されます。

ブロッカーをオフにするには、以下のステップを実行します。

Mozilla Firefox:

1. 「ツール」>「オプション」>「コンテンツ」の順にナビゲートします。
2. 「ポップアップウィンドウをブロックする」フィールドをクリアします。

Internet Explorer:

1. 「ツール」をクリックします。
2. 「ポップアップ ブロック」にナビゲートして、「ポップアップ ブロックを無効にする」をクリックします。

Internet Explorer で以下のステップを実行することもできます。

1. 「ツール」>「インターネット オプション」をクリックします。
2. 「プライバシー」タブにナビゲートして、「ポップアップブロックする」をクリックします。

CA 証明書の有効期限切れ

暗号化、署名、および SSL クライアントに使用する証明書は、有効期限が切れると無効になります。CA 証明書は有効期限が切れても無効にはなりませんが、実行時に使用されません。サーバーが再始動されてから次に再始動されるまでの間にルートまたは中間の証明書の有効期限が切れた場合、それらの証明書は信頼できる証明

書のリストから除外されます。したがって、CA 証明書が見つからなかったために certpath の作成が失敗した場合の原因は、CA 証明書の有効期限切れである可能性があります。実行時にルートまたは中間の証明書の有効期限が切れた場合、certpath の作成は失敗し、対応する暗号化、デジタル署名、または SSL 証明書はビジネス・トランザクションで使用されません。証明書の有効期間状況は、WebSphere Partner Gateway コンソールで確認できます。証明書の有効期間は、WebSphere Partner Gateway コンソールの「証明書リスト」ページに表示されます。証明書の有効期限が切れている場合は、有効期間が赤色で表示されます。CA 証明書の有効期限が切れた場合は、証明書を発行した CA から新規の証明書を取得します。この新規の CA 証明書を WebSphere Partner Gateway コンソール内でアップロードする必要があります。

注: アップロードした証明書がサーバー認証用の自己署名証明書であり、その有効期限が切れた場合は、WebSphere Partner Gateway コンソールでこの証明書を無効にする必要があります。

AS トランザクションの MDN 状況「不明」

WebSphere Partner Gateway v6.2 へのアップグレードが完了すると、コミュニティー・コンソールの AS ビューアーで、アップグレード前に発生した AS トランザクションの MDN 状況に「不明」の状態が示されます。これは、マイグレーション・プロシージャーおよびユーティリティーの制約です。

フィックス適用後にサーバーが始動に失敗する

バージョン 6.1 のアップデート・インストーラーを使用して最近フィックスまたはフィックス・パックを適用した場合に、サーバー (Dmgr、NodeAgent、および AppServers) が始動に失敗することがあります。この障害についての情報は SystemOut.log には出力されません。

ただし、startServer.log には、次のような内容が示されます。ADMU3011E: Server launched but failed initialization. startServer.log, SystemOut.log (or job log in zOS) and other log files under /home/dwhare/WebSphere61/profiles/Dmgr01/logs/dmgr should contain failure information.

この問題は、WebSphere Application Server 環境が非 root ユーザーで稼働するようにセットアップされているときに、root ユーザーでフィックスまたはフィックスパックを適用すると発生します。

注: 既存のインストール済み環境の場合、このインストール済み環境に対して以降のインストール操作または削除操作を実行できるユーザーは、現在インストールされているファイルを所有する root または非 root のインストール実行ユーザーのみです。サーバーが始動に失敗する原因は、権限の問題により、フィックスパック適用後に OSGI キャッシュが更新されていないことにあります。これを検証するには、

注: check the < WAS_PROFILE_HOME >configuration/ ディレクトリーで、数字ストリングのファイル名を持つログ・ファイルを見つけます。

このファイルには次のようなエラーが記録されています。

```
MESSAGE Error reading configuration: /home/dwhare/WebSphere61/profiles/Dmgr01/configuration/org.eclipse.osgi/.manager/.fileTableLock (Permission !STACK 0 java.io.FileNotFoundException: /home/dwhare/WebSphere61/profiles/Dmgr01/configuration/org.eclipse.osgi/.manager/.fileTableLock (Permission at java.io.FileOutputStream.openAppend(Native Method) at java.io.FileOutputStream.<init>(FileOutputStream.java:203) at org.eclipse.core.runtime.internal.adaptor.Locker_JavaNio.lock(Locker_JavaNio.java:34) at org.eclipse.core.runtime.adaptor.FileManager.lock(FileManager.java:361)at org.eclipse.core.runtime.adaptor.FileManager.open(FileManager.java:658).
```

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. 実行中のすべての WebSphere Application Server プロセスを停止します。
2. WebSphere インストールのファイル許可を非 root ユーザーに戻します。
3. `<WAS_HOME >>/profiles/< profile> >/bin/osgiCfgInit.sh` を実行します。
4. サーバーを始動します。osgiCfgInit コマンドにより、`WAS_HOME>/configuration/` のサブディレクトリーの内容が更新されます。このディレクトリーは、`< WAS_HOME>/plugins/` の jar のデータをキャッシュする目的で使用されます。

jar のデータが更新されたら (サービス・パックのインストール時など)、キャッシュ・データを更新する必要があります。キャッシュの更新は、サービス・パックのインストール後にプロファイルで初めてコマンド (startServer.sh コマンドなど) が実行された時点で行われます。ただし、上記のような例外が発生している場合はキャッシュが更新されないため、手動で更新する必要があります。

WebSphere Application Server のショートカット・ポートの訂正

このタスクについて

「スタート」メニューを使用して WebSphere Application Server ND 管理コンソールを起動するとき、Windows システムのショートカットに使用されているポートが正しくない場合は、ポートを変更する必要があります。ポートを変更するには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」メニュー > 「プログラム」 > 「IBM WebSphere」 > 「Application Server Network Deployment V6.1」 > 「プロファイル」 > 「bcgprofile」 > 「管理コンソール」に移動します。
2. プロパティを右クリックして選択し、ポートの値を変更します。

1024 より大きい解像度のディスプレイでのタブ見出しのレンダリング

解像度の幅が 1024 ピクセルよりも大きい値に設定されているディスプレイでは、コミュニティー・コンソールで「文書の詳細」ビューなどの画面のタブ見出しが正しく表示されないことがあります。この動作は無視できます。

キューとディスクがフルまたは使用不可能なときのリカバリー処理

このタスクについて

メッセージング・システムと共通ファイル・システムが処理中にフルまたは使用不可能になると、ビジネス文書オブジェクト (BDO) はレシーバー・マシンの一時フォルダー WPG_HUB_INSTALL_HOME¥Receiver¥temp の下に一時的に残存します。この場合、ハブは次の記述の付いたイベント 103205 をトリガーします。

```
Receiver Processing halted, due to following reason failed to process target:  
With Queue and File system unavailable/Full.  
Please make sure queue and disk system are available  
for processing and start the receiver.
```

この記述の付いたメッセージを受け取った場合は、次の手順を行います。

1. キューと共通ファイル・システム・ディスクを処理に使用できるようにします。
2. レシーバー・サーバーを再始動します。
3. レシーバーの一時フォルダーの下に残存するビジネス文書オブジェクト (BDO) をハブの共通ファイル・システムの **router_in** フォルダーに移動します。

HubOperator ユーザー・パスワードの変更

HubOperator の下にユーザーを作成し、そのユーザーとしてログインする場合、パスワードをオンデマンドで変更することはできません。これは、ユーザー・プロファイルの編集ではパスワードを使用できないためです。

この問題を解決するには、ハブ管理者がそのユーザーにアクセス権を付与する必要があります。任意のパートナーにアクセス権を付与するには、ハブ管理者、またはその特定のパートナーの管理者としてログインしなければなりません。

hubadmin または外部パートナーの下に作成されたパートナーにアクセス権を付与するには、以下のステップを実行します。

1. ハブ・オペレーターとしてログインします。
2. 「グループ」 > 「デフォルト」にナビゲートして、アクセス権を表示します。
3. 「ユーザー」モジュール名に読み取り/書き込み権限を付与します。
4. 「保存」をクリックします。

鍵のサイズが 192 ビットのファイル、および 256 ビットのファイルで AES アルゴリズムを使用しているときの例外の処理

ebMS 暗号化メッセージをルーティングするときに、暗号化アルゴリズムとして「aes-192-cbc」または「aes-256-cbc」、暗号化プロトコルとして「Xml Encryption」を使用すると、「暗号化が失敗しました。コンテンツの暗号化中に XMLEncryptionException が発生しました。(Encryption failure XMLEncryptionException occurred while encrypting the content.)」という例外が発生します。

この問題を解決するには、無制限の暗号化ポリシー・ファイルをインストールします (法的に許可されている場合)。

既存のデプロイメント・マネージャーを使用して WebSphere Partner Gateway の新規インスタンスを作成する

既存のデプロイメント・マネージャーを使用してアプリケーションの新規インスタンスを作成すると、WebSphere Partner Gateway は始動に失敗します。

この問題を解決するには、WebSphere Partner Gateway のインスタンスごとに別個のデプロイメント・マネージャーを使用します。

注意すべきいくつかのポイントを以下に示します。

- デプロイメント・マネージャーを同じマシンにインストールする場合は、WebSphere Partner Gateway インストーラーではなく、WebSphere Application Server プロファイル管理ツールを使用して、同じものをインストールするようにしてください。
- WebSphere Partner Gateway インストーラーを使用して、デプロイメント・マネージャーを別のマシンにインストールすることもできます。
- 同じマシンに複数の WebSphere Partner Gateway インスタンスが存在する場合、始動しているインスタンスは常に 1 つだけになるようにしてください。

FTP スクリプト記述エラーの解決

FTP エラーを解決するヒントを以下にいくつか示します。

ターゲット/レシーバーの FTP スクリプト記述

一定期間の非アクティブ状態の後、FTP スクリプト記述ターゲット/レシーバーがポーリングを停止するという問題が発生します。これは、WebSphere Partner Gateway サーバーが再始動されるまで発生しました。この問題は、マトリックス FTP サーバーを使用するたびに検出されました。

問題を解決するには、FTP スクリプトに「passive」を追加します。 passive を使用する例を以下に示します。

```
open %BCGSERVERIP% %BCGUSERID% %BCGPASSWORD%
passive
bin
cd frmtolas
mgetdel *.WGT*
quit
```

TR0842 および FF0162 次のトランザクションの変換の試行中に即時エラーが発生しました (TR0842 and FF0162 Immediate error attempting to translate the next transaction)

顧客が WebSphere Partner Gateway で FTP スクリプト記述レシーバーを使用している場合は、EDI X12 997 肯定応答がスクリプトによって提供されます。

WebSphere Partner Gateway は、Windows サーバー上でセットアップされます。トランザクションは、JMS を使用してメインフレーム MQ アウトバウンド・キューに渡されます。WDI バッチ・プロセスが受信とエンベロープ解除を行います。こ

これは、アウトバウンド MQ キューに対して実行されます。WDI は、MQ キューの処理中にトランザクション・エラーを受け取ります。トランザクションは処理されず、以下のメッセージが表示されます。

```
Message: TR0842 and FF0162 Immediate error attempting to translate the next transaction. FF0162 Immediate error attempting to translate the next transaction.ftp script should be set to different mode to avoid garbage inserted in the transaction
```

問題を解決するには、以下を実行します。

```
set bin mode for the ftp script
Example looks like:
open %BCGSERVERIP% %BCGUSERID% %
BCGPASSWORD%
cd /download
bin
mget *
```

bin モードを設定すると、ガーベッジの挿入が回避され、トランザクションが成功します。

ユーザー・レベル・ロックを備えた FTP スクリプト記述宛先を使用した文書の送信

複数の文書マネージャーのセットアップでは、FTP スクリプト記述宛先を使用して文書を送信するときに、「ロック・ユーザー」属性の値に「はい」を設定すると、文書が失敗して、「文書の送達に失敗しました - パートナー宛先への文書の送達 (Document Delivery Failed - Document delivery to partner Destination)」というエラーが出される場合があります。

複数の文書マネージャーのセットアップでは、すべての文書マネージャーのインスタンスが FTP スクリプト記述宛先に文書を送達することを試みます。「ロック・ユーザー」オプションに「はい」を設定すると、すべてのインスタンスが同じユーザー・アカウントのロックを試みますが、ロックを獲得する文書マネージャーのインスタンスは 1 つのみです。その他のすべてのインスタンスは、再試行カウントを超えるまで、ロックの獲得を試み続けます。再試行カウントを超える前にインスタンスがロックを獲得できなかった場合は、文書の送達に失敗し、「文書の送達に失敗しました - パートナー宛先への文書の送達 (Document Delivery Failed - Document delivery to partner Destination)」というエラーが出されます。

このような問題を解決するには、WebSphere Partner Gateway コンソールから FTP スクリプト記述宛先の「ロック・ユーザー」属性の値を編集して、「いいえ」を設定します。

「ロック・ユーザー」属性の値を編集するには、以下のステップを実行します。

1. **WebSphere Partner Gateway** コンソールで、「パートナー」>「宛先」>**FTP スクリプト記述ゲートウェイ**の順にナビゲートします (特定の FTP スクリプト記述ゲートウェイを選択します)。
2. 「ロック・ユーザー」属性を編集して「いいえ」を設定します。

コンソール・イベント・ビューアーでイベントが公開されない

コンソール・イベント・ビューアーでイベントが公開されません。systemOut.log には以下のエラーが表示されます。下記のエラー・メッセージに示されるイベントに従って、問題を解決します。

CWSIT0088E: バス BCGBus 内で現在稼働中のメッセージング・エンジンはありません。(There are currently no messaging engines in bus BCGBus running.) 失敗の追加情報:

CWSIT0103E: 以下のパラメーターと一致するメッセージング・エンジンはありませんでした (No messaging engine was found that matched the following parameters): bus=BCGBus。これは、メッセージ・エンジンに関する問題を示します。この具体的な事例では、実際には、MAS サーバーが始動しませんでした。

必須データ・エレメントの欠落

XML から EDI へのマッピングを行うと、必須データ・エレメントが欠落しているという旨のエラー・メッセージが表示されました。

この問題を解決するには、マップを検査して、必須エレメントを定義します。必須エレメントの横には「m」が付いています。

Test または Production を示す RosettaNet タグ GlobalUsageCode の処理

RosettaNet タグ GlobalUsageCode は、属性によって設定されます。

RosettaNet タグの GlobalUsageCode は、以下のように設定されます。

```
<GlobalUsageCode>Production<GlobalUsageCode>
```

この値は、属性 x-aux-production を通じて RODPostProcessing ユーザー出口で設定されます。GlobalUsageCode は、x-aux-production 属性によって決定されます。

この問題を解決するには、ユーザー出口 RODPostProcessing を通じてこの値を変更します。

両方向 PIP RosettaNet 3A4 トランザクションの失敗の処理

WebSphere Partner Gateway 6.x は、バックエンド・システムが「PO 確認アクション」を送信する前に、両方向 PIP 3A4 の「受信肯定応答」を戻さない場合があります。これにより、3A4 トランザクションがシーケンスから外れて失敗します。

本書では、3A4 PIP に関連する問題について記述していますが、この問題は、3A8 「PO 変更要求」などの他の両方向 PIP トランザクションでも発生する場合があります。

「PO 要求」の場合、バックエンド・システムは、WebSphere Partner Gateway が「受信肯定応答」を送信できる前に「PO 確認アクション」を戻します。取引パートナーが「PO 確認アクション」の「受信肯定応答」を送信すると、RosettaNet 3A4 トランザクションがシーケンスから外れて失敗します。

問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. イベント・ビューアーで、3A4 PO 要求が受信された時刻を確認します。
2. 次に、「PO 確認アクション」が送信された時刻を確認します。これらの 2 つを減算して、時差を求めます。時差が 6 秒の場合は、Rosettanet の inbound_poll_interval プロパティに 5 秒を設定します。これにより、「PO 確認アクション」がバックエンド・システムから送信される前に「受信肯定応答」が送信されます。

WebSphere Partner Gateway でこの問題を解決するには、以下のステップを実行します。

1. コンソールを開きます。
2. 「システム管理」>「DocMgr の管理」>「RosettaNet」に移動します。
3. 「レコードの編集 (EditRecord)」をクリックします。
4. bcg.rne.inbound_poll_interval の値を小さくします。デフォルトは 10000 (10 秒) です。
5. 「保存」をクリックします。

注: いくつかのトランザクションをモニターし、受け取った結果によっては、時間をより小さくしなければならない場合があります。

シンプル・モードの WebSphere Partner Gateway と WebSphere Process Server が同じマシンにインストールされているときの統合の問題の処理

シンプル・モードの WebSphere Partner Gateway と WebSphere Process Server が同じマシンにデプロイされていると、以下のような統合の問題が発生します。

WebSphere Partner Gateway は、WebSphere Process Server とバインドされたリソース・オブジェクト (キュー接続ファクトリー/キュー) を検索できません。この問題は、同じホスト上で動作する同じ名前の 2 つのサーバーを使用して相互協調処理を行う場合に発生します。例えば、サーバーのノード 1 でアプリケーションを実行します。このアプリケーションは、同じ名前のサーバーのノード 2 にあるオブジェクトへのリモート・オブジェクト参照を使用します。両方のノードが同じホストにインストールされている場合は、以下の障害が発生する場合があります。

1. JNDI 検索が失敗し、NameNotFoundException が発生します。
2. JNDI 検索以外で取得されたオブジェクト参照が失敗し、通常は org.omg.CORBA.OBJECT_NOT_EXIST 例外が発生します。

通常、ローカル・プロセスのオブジェクトの場合、リモート・オブジェクト参照は、正しく解決されません。つまり、ノード 2 のサーバー・プロセスのリモート・オブジェクトへの参照は、ノード 1 のローカル・プロセスの同じタイプのオブジェクトへと誤って解決されます。

この問題を解決するには、単一ボックスでサーバー名が同じにならないようにして、JNDI 解決が失敗しないようにします。これらのタイプの統合シナリオでは、シンプル配布トポロジまたは完全配布トポロジのいずれかを使用する方法をお勧めします。

WebSphere Partner Gateway 6.1.0 シンプル配布トポロジで DIS インポート bat/sh がマップのアップロードに失敗する

DIS インポートのバッチまたはシェル・スクリプトからマップをアップロードしようとして失敗し、下記の通信エラーが表示されます。

```
WARNING: jndiUnavailCommErr com.ibm.bcg.server.serviceclient.RouterServiceClient importMaps Router Server is probably down check the following exception com.ibm.bcg.server.serviceclient.RouterServiceClient importMaps A communication failure occurred while attempting to obtain an initial context with the provider URL: "corbaloc:iiop:localhost:56809".
```

1. URL 内のブートストラップ・アドレス情報が正しいこと、およびターゲット・ネーム・サーバーが稼働していることを確認してください。
2. ブートストラップ・アドレスにポートが指定されていない場合、ポートはデフォルトで 2809 に設定されます。ブートストラップ・アドレスが正しくないこと、またはネーム・サーバーが使用できないこと以外に考えられる原因としては、ネットワーク環境およびワークステーションのネットワーク構成があります。シンプル配布トポロジのブートストラップ・アドレス・ポインターが無効です。

この問題を解決するには、bcgDISImport バッチまたはシェル・スクリプトを開き、アプリケーション制約ブロックの下のブートストラップ値を編集して、bcgServer ブートストラップ値を取得するようにします。

bcgServer のブートストラップ・ポートを調べる方法は以下のとおりです。

1. デプロイメント・マネージャー管理コンソールにログインします。
2. 左ペインでサーバー・オプションを選択し、右ペインに表示された bcgserver を選択します。
3. bcgServer ページ情報で、ポートのリンクを選択し、そのポート・ページの下で「BOOTSTRAP_ADDRESS」列を調べて、その値を確認します。(例: 56809)。

IPv6 プロトコルを使用した FTP 接続

WebSphere Partner Gateway から FTP サーバーへの FTP 接続には、IPv4 アドレスがデフォルト・アドレスとして使用されます。このため、IPv4 プロトコルが使用されます。IPv6 プロトコルを使用する必要がある場合は、プロパティ `java.net.preferIPv6Addresses` に `true` を設定する必要があります。

デフォルトでは、`java.net.preferIPv6Addresses` には `false` が設定されています。したがって、JDK は、localhost の IP アドレスとして IPv4 アドレスを戻します。EPRT コマンドで IPv4 アドレスをサーバーに送信するときは、IPv4 プロトコルを使用してデータが転送されます。

この問題を解決するには、JVM システム・プロパティ `java.net.preferIPv6Addresses` に `true` を設定する必要があります。IPv6 がサポートされているかどうかと IPv6

アドレスが使用可能であるかどうかの確認の後、FTP EPRT コマンドで IPv6 アドレスが送信され、IPv6 プロトコルが接続で使用されます。

プロパティの設定手順を以下に示します。

1. 管理コンソールで、「サーバー」>「アプリケーション・サーバー」> {サーバー}>「Java およびプロセス管理」>「プロセス定義」>「Java 仮想マシン」にナビゲートします。
2. IPV6 プロトコルを使用できるようにするには、テキスト・フィールドに
`-Djava.net.preferIPv6Addresses=true`
を追加して、「汎用 JVM 引数」フィールドの `java.net.preferIPv6Addresses JVM` プロパティに `true` を設定します。
3. 「適用」をクリックして、新しい設定を適用します。
4. 次のページが表示されたら、コンソール・タスクバーの「保存」をクリックして、マスター構成に対する変更内容を保存します。
5. 「再始動」をクリックして、アプリケーション・サーバーを再始動します。

この構成は、シンプル・モードの `server1` インスタンス、シンプル配布モードの `bcgserver` インスタンス、および完全配布モードの `bcgdocmgr` インスタンスに対して行う必要があります。

配布デプロイメントの証明書ストア構成が既存の WebSphere Application Server Network Deployment セルと競合する可能性がある

配布デプロイメントでは、WebSphere Partner Gateway がデプロイされるときに、SSL 用のトラストストア (`bcgSecurityTrust.jks`) および鍵ストア (`bcgSecurity.jks`) が構成されます。既存の WebSphere Application Server Network Deployment セルでは、トラストストアおよび鍵ストアの構成が、他のアプリケーション用に構成されている既存の証明書ストアと競合する可能性があります。各配布デプロイメント・モードの構成は、以下のとおりです。

シンプル配布デプロイメント:

1. トラストストアはセル・レベル (`CellDefaultTrustStore`) で構成されます。
2. 鍵ストアはセル・レベル (`CellDefaultKeyStore`) で構成されます。

完全配布デプロイメント:

1. トラストストアはセル・レベル (`CellDefaultTrustStore`) で構成されます。
2. 鍵ストアはノード・レベル (`NodeDefaultKeyStore`) で構成されます。

競合が発生した場合、問題を解決するには以下の選択肢があります。

1. トラストストアまたは鍵ストアを他のアプリケーションと共用できる場合は、WebSphere Partner Gateway の構成を変更するか、他のアプリケーションが同じ証明書ストアを使用するように変更します。
2. トラストストアまたは鍵ストアを他のアプリケーションと共用できない場合は、WebSphere Partner Gateway の構成を変更するか、他のアプリケーションが別の証明書ストアを使用するように変更します。WebSphere Partner Gateway に固有

の鍵ストアおよびトラストストアをクラスター・レベルで設定することもできます。証明書ストアをクラスター・レベルで設定するには、以下の操作を実行します。

- a. WebSphere Partner Gateway の鍵ストアおよびトラストストアを使用して SSL 構成を作成します。
- b. SSL 構成を WebSphere Partner Gateway レシーバーおよびコンソール・クラスター用に設定します。

注: この方法は、レシーバーとコンソールが別々の鍵ストアおよびトラストストアを使用しなければならない場合にも推奨されます。

証明書ストアを構成するには、WebSphere Application Server Deployment Manager 管理コンソールを使用します。

カスタム・ゲートウェイが記述子ファイルで属性名 URI を使用すると属性値を保存できない

制限付きの属性である「URI」を使用すると、ゲートウェイがオフラインになるときに、ゲートウェイ・プロファイル属性値を保存できません。「URI」は制限付きの属性であるため、記述子ファイルでは使用できません。

この問題を回避するには、記述子ファイルを定義するときに、属性値「URI」を使用しないでください。

例えば、`< tns2:AttributeName>URI</tns2:AttributeName>` で、「URI」は、記述子ファイルで使用できない、制限付きの属性です。

UNIX/DB2 用 cf_edi_protocoltypeu.sh の実行エラー

コマンド `cf_edi_protocoltypeu.sh` が UNIX/DB2 で正常に実行されません。このスクリプトは、実行のログを `.../bcgdbloader/scripts/DB2` ディレクトリーに書き込もうとします。データベース・ユーザー (db2inst1) がそのディレクトリー (`.../bcgdbloader/scripts/DB2`) への書き込み権限を持っていない場合、スクリプトの実行は失敗します。

データベース・ユーザー (db2inst1) に `.../bcgdbloader/scripts/DB2` ディレクトリーへの書き込み権限を付与してください。

WebSphere Partner Gateway 文書に保持されるファイル名

このタスクについて

外部の顧客が、圧縮し、署名して、暗号化した AS2 メッセージを WebSphere Partner Gateway パートナーに送信すると、着信 AS2 メッセージには (他のヘッダーに加えて) ヘッダー `Content-Disposition`、`Content-Type` が含まれます。

例えば、次のようになります。

```
Content-Disposition: inline; filename=B8A2B300.418
Content-Type: application/pkcs7-mime; smime-type=enveloped-data;
name=smime.p7m
```

受信側では、WebSphere Partner Gateway は圧縮、署名、および暗号化された AS2 メッセージを受信するように構成されます。これらのメッセージは解凍され、抽出されたペイロード・コンテンツが FTP ゲートウェイに送信されます。この FTP ゲートウェイはバックエンド FTP サーバーを指します。

WebSphere Partner Gateway は AS2 メッセージを受信すると、以下のタスクを実行します。

1. 暗号化解除
2. 署名の検証
3. ペイロード・コンテンツの解凍
4. ファイル名を「smime.p7m」として書き込む

これにより、パートナーから受信するすべての AS2 ファイルは、タスク 4 で示した同じ名前書き込まれます。

ペイロード・ファイルを (ftp ゲートウェイではなく) ファイル・ディレクトリー・ゲートウェイに送信するように構成すると、結果的に同じ動作になります。

受信側の WebSphere Partner Gateway パートナーは、ファイル名が (「smime.p7m」ではなく) HTTP ヘッダーに設定されたオリジナルのファイル名であることを期待しています。この動作は、特定のパートナー製品に対して発生する可能性があります。

この特定の事例では、このファイル名が圧縮データの MIME ヘッダーには存在するが、暗号化されたデータの MIME ヘッダーに存在しないために、障害が発生しました。WebSphere Partner Gateway は、暗号化 MIME ヘッダーからファイル名を抽出します。

解決:

パートナーが保持したいファイル名は Content-Disposition AS ヘッダーにも暗号化データの MIME ヘッダーにも含まれないことが検証されます。保持すべきファイル名はデータのバイナリー・コンテンツ添付ファイルにのみ含まれます。パートナーの要件を満たすには、ユーザー出口のカスタム・コードを開発する必要があります。

EbMS による同期応答の構成

同期 pong 応答を取引パートナーに返送しようとしても、同じ HTTP セッションで返送されません。

以下のステップを実行して、この問題を解決します。

1. 「アカウント管理」>「接続」に移動します。
2. ソースおよびターゲット接続を入力します。
3. 接続のターゲット側の「属性」をクリックします。
4. 「同期応答モード」を「mshSignalsOnly」に変更します。

WebSphere Partner Gateway からの ROD 出力に二重引用符が含まれる

WebSphere Partner Gateway を使用して EDI を ROD/ADF に変換すると、各出力フィールドの値が二重引用符でカプセル化されます。二重引用符を削除するには、後処理ハンドラー (ユーザー出口) を作成します。

第 10 章 ヒントと落とし穴

この章では、WebSphere Partner Gateway に関して理解すべきヒントと落とし穴をいくつか説明します。

WebSphere Partner Gateway のデバッグ・トレースを使用可能にする

デバッグ・ログを使用可能にするには、次のようにします。

1. **WebSphere Application Server 管理コンソール** > 「**トラブルシューティング**」 > 「**ログおよびトレース**」 > 「**<Server-name>診断トレース・サービス**」 > 「**ログ詳細レベルの変更**」 > 「**ランタイム**」にナビゲートします。
2. 「**com.ibm.bcg**」をクリックし、トレース・レベルとして *finest* を選択します。

配布モードの場合は、WebSphere Partner Gateway コンポーネントがインストールされているすべてのサーバーでこの変更を行うようにしてください。

現行構成のエクスポートによるサポート

IBM サポート担当員は、検討するためにユーザーの構成情報を担当者側にエクスポートするように依頼する場合があります。この処理は、{INSTALL DIR}¥bin ディレクトリーにある BCGConfigurationExport ツールと BCG_DBConfigurationExport ツールを使用して行うことができます。

BCGConfigurationExport: このユーティリティーは、ログおよびプロパティー・ファイルをコピーします。出力は、BCGConfigurationExport.output.<hostname>.jar というファイルになります。ここで、<hostname> は WebSphere Partner Gateway を実行しているワークステーションのホスト名です。ファイルは、ユーザーが指定するディレクトリーに作成されます。このユーティリティーでは 3 つのパラメーター、すなわち WebSphere Application Server ログのルート・ディレクトリー ({INSTALL DIR}¥was)、WebSphere Partner Gateway ルート・ディレクトリー ({INSTALL DIR}¥)、および宛先ロケーションを指定する必要があります。

BCG_DBConfigurationExport: このユーティリティーは、WebSphere Partner Gateway データベースから構成データをコピーします。出力は、BCGDB_ConfigurationExport.DB.output.<dbname>.jar というファイルになります。ここで、<dbname> はデータベースの名前です。このファイルは、ユーザーが指定するディレクトリーに作成されます。このユーティリティーでは 5 つのパラメーター、すなわち宛先ディレクトリー、データベース・フラグ (DB2 または ORA)、データベース名、データベース・ログイン ID、およびデータベース・パスワードを指定する必要があります。いずれかのユーティリティーを実行する前に、Java jre ディレクトリー (INSTALL DIR>¥was¥java¥bin¥) がパスに含まれていることを確認してください。BCG_DBConfigurationExport を DB2 で実行する場合は、DB2 コマンド行を使用します。Oracle の場合は、Oracle ツールを実行できるように環境がセットアップされていることを確認してください。

他の WebSphere Partner Gateway データベースを使用するようコンソール・サーバーを構成する

1. **WebSphere Application Server** 管理コンソールにログインします。
2. 「リソース」を展開し、「**JDBC**」>「**データ・ソース**」をクリックして、「**datasources/bcgConDS**」をクリックし、「**DB2 ユニバーサル・データ・ソース・プロパティ**」の下のプロパティを変更します。
3. 「**データベース名**」、「**サーバー名**」、および「**ポート番号**」を新規の値に変更し、その変更内容をマスター構成に保存します。
4. 「**テスト接続**」ボタンを使用して、接続をテストすることもできます。

WebSphere Partner Gateway 共通ディレクトリーの変更

1. 新しい共通ディレクトリーをセットアップします。
2. 「**../common/..**」フォルダーを維持するために共有フォルダーを作成します。
3. 既存のディレクトリー構造と似たディレクトリー構造を作成します。
4. このディレクトリー構造を指すソフト・リンク (マウント/マップ) を作成します。
5. **WebSphere Partner Gateway** コンソールにログインします。「**システム管理**」をクリックして、「**共通属性**」の下の値を変更します。
6. 古いファイル・システムを指しているすべてのプロパティについて、それが新規ファイル・システムを参照するように変更します。
7. **LG_MEDIA** テーブルの **non_rep** パスおよび **msg_store** パスの **URI** エントリーを更新します。
8. 「**レシーバー**」プロパティを構成します。
9. **WebSphere Partner Gateway** コンソールにログインします。「**システム管理**」をクリックして、「**レシーバー管理**」>「**レシーバー・ディレクトリー属性**」の値を変更します。
10. 古いファイル・システムを指しているすべてのプロパティについて、それが新規ファイル・システムを参照するように変更します。
11. **DocMgr** プロパティを構成します。
12. **WebSphere Partner Gateway** コンソールにログインします。「**システム管理**」をクリックして、「**DocMgr の管理**」>「**デリバリー・マネージャー属性**」の値を変更します。
13. 古いファイル・システムを指しているすべてのプロパティについて、それが新規ファイル・システムを参照するように変更します。

WebSphere Partner Gateway ロギングの制御

どのエラー・シナリオにも対応するためにロギングを最も詳細なレベルに変更する手順を以下に示します。

1. **WebSphere Application Server** 管理コンソールを始動します。
2. 「**トラブルシューティング**」>「**ログおよびトレース**」をクリックします。
3. サーバー名を選択して、「**ログ詳細レベルの変更**」をクリックします。

4. 「ランタイム」タブを選択します。すべてのコンポーネントが finest レベルに設定されている場合は、同じものを無効にしてください。info:com.ibm.bcg に finest と入力することにより、特定のコンポーネントのみを有効にします。

注: 「ランタイム」タブで行った変更は、アクティブにロードされたモジュールで有効になるので、サーバーを再始動する必要はありません。「構成」タブで行われた変更は、アプリケーション・サーバーが再始動するまでは、有効になりません。

5. 上記の手順を、WebSphere Partner Gateway コンポーネントがインストールされているすべてのサーバーで繰り返す必要があります。

MQ 製品との外部統合

WebSphere Partner Gateway は 受信側または送信側で MQ と連動することができます。WebSphere Partner Gateway では、MQ との外部統合のために WebSphere Application Server 管理コンソールでキュー接続ファクトリーおよびキュー定義を定義するときに、構成が不適切であるとエラーが発生する可能性があります。この構成は WebSphere Application Server で行われるため、WebSphere Application Server が再始動して構成が有効になることが保証されます。

他の MQ プロバイダー (Sonic MQ など) を使用することもできます。これらは、新規 MQ プロバイダーとして WebSphere Application Server に構成するか、ファイル・バインディングまたは JNDI を使用して構成することができます。

文書が配信されずにスタックされる

ある状況下では、文書が Gateway フォルダーにスタックされることがあります。このようになるのは、以下の場合です。

1. ゲートウェイが、ゲートウェイの再試行を実行する再試行モードにある場合。この場合、このゲートウェイの他のすべてのスレッドは中断されてしまいます。他の文書は、配信対象として認識されません。
2. ゲートウェイの自動キューが「はい」となっている場合は、ゲートウェイで配信障害が発生すると、ゲートウェイはオフラインに設定されます。オフラインのゲートウェイでは、文書はキューに入るだけです。その後ゲートウェイを手動で「オンライン」に設定して、配信を開始する必要があります。これは、なるべくゲートウェイのエラー状態が解決した後に行ってください。

インストールの考慮事項

各システム上のグループ ID とユーザー ID (UID) は、WebSphere Partner Gateway セットアップに含まれる他のすべてのシステム上の対応する ID と同じでなければなりません。共通ファイル・システムの権限が不十分であると、ファイル入出力エラーが発生する場合があります。

既存の WebSphere Partner Gateway インストール済み環境に新しいノードを追加するときは、以下の点に注意する必要があります。

1. 既存のノード、文書マネージャー、および新しいノードをインストールするマシンの各クロックは、一致していなければなりません。
2. 文書マネージャーは、新しいノードのホスト名を解決できる必要があります。

WebSphere Partner Gateway のフィックスパックのインストーラーは、WebSphere Partner Gateway コンポーネントを更新することを目的としています。共通ファイル・システムまたは MAS サーバーしか持たないシステムで FP インストーラーは実行しないでください。これを行うと、WebSphere Partner Gateway インストール済み環境のファイルが破損する場合があります。

WebSphere Partner Gateway のプロキシ・サポート

WebSphere Partner Gateway では、プロキシ・サポートのために HTTP トンネリング方式が使用されます。プロキシ・サーバーへの接続は、HTTP ポートでのみサポートされます。SSL ポートではサポートされません。WebSphere Partner Gateway ではトンネリングが使用されるため、WebSphere Partner Gateway とともに使用するプロキシ・サーバーは、CONNECT メソッドをサポートする必要があります。WebSphere Partner Gateway では、以下のタイプのサポートが用意されています。

1. HTTP/HTTPS プロトコル専用のプロキシ・サポート。このサポートは、FTP や FTPs などのプロトコルには拡張されていません。
2. WebSphere Partner Gateway では、認証を備えたプロキシ・サーバーがサポートされます。
3. WebSphere Partner Gateway では、SOCKS プロキシ・サーバーもサポートされます。

WebSphere Partner Gateway のタイムアウトの問題

外部のパートナーにデータを送信している間に、書き込みまたは読み取りのタイムアウトが発生する場合があります。このようなタイムアウトは、データが巨大である、ネットワークが低速である、パートナーの応答が遅いなどの理由で発生します。これらの問題を解決するには、WebSphere Partner Gateway コンソールの「**ゲートウェイの定義 (Gateway definition)**」ページで、ゲートウェイ接続のタイムアウト値を大きくします。

同期応答フローの場合は、WebSphere Partner Gateway 内でタイムアウトが発生する場合があります。送信側のハブと受信側のハブで、それぞれ HTTP 戻りコード 408 および 410 が観察される場合があります。通常、同期フローのタイムアウトは、ルーターが応答を戻すのに時間がかかることが原因で発生します。これらの問題を解決するには、受信する WebSphere Partner Gateway ハブの HTTP ターゲットの最大同期タイムアウト値を調整します。

インストールと構成のトラブルシューティングのヒント

以下のいずれかの問題が発生した場合のトラブルシューティングのヒントをいくつか示します。

リモート・マシンのデプロイメント・マネージャーを使用しているときにノードが統合しない

<installdir >/logs フォルダの AddNode.log を確認します。

複数マシンのセットアップでシンプル・モードまたは分散モードのインストールを開始する前に、すべてのコンピューターのシステム時刻が同じであること、あるいは誤差が 5 分以内であることを確認してください。コンピューター間の時差が 5 分を超えている場合、そのノードの統合は失敗します。 WebSphere Partner Gateway を複数マシンのセットアップで正常にインストールするには、複数マシンのセットアップで使用されているマシンを IP アドレスとホスト名を使用して ping できる必要があります。

メッセージング・エンジンを始動できない

インストール時、クラスターを始動した後にハブを再インストールする場合は、MAS データベースを再インストールする必要があります。

コンソールのログイン・ページを表示できない

コンソールにログインできない場合、またはログイン・ページを表示できない場合は、以下のいずれかの理由が考えられます。

1. DB2 の場合、オペレーティング・システムのユーザーとグループが存在しない。詳しくは、WebSphere Partner Gateway のインストール・ガイドにあるインストール前のチェックリスト表を参照してください。
2. 「LDAP 認証を有効にする (Enable LDAP authentication)」を選択しており、LDAP で hubadmin ユーザーを作成していない場合は、コンソールにログインできません。

LDAP 認証を無効にする場合は、**dbloaderinstall**>/scripts/DB2 フォルダにある以下のスクリプトを実行します。

```
bcgResetAuthentication.bat/sh
```

このスクリプトにより、有効になっている LDAP は False に、hubadmin パスワードは Pa55word に再設定されます。 Oracle を使用してアプリケーション・データベースを作成している場合、このスクリプトは、<dbloaderinstall>/scripts/Oracle の下にあります。

WebSphere Messaging Engine の別のインスタンスのインストール時にデータベース作成オプションを選択する際の問題

WebSphere Partner Gateway を配布モードでインストールするときに、WebSphere Messaging Engine の複数のインスタンスをインストールできます。インストール時には、以下のメッセージが表示され、指定のオプションのいずれかを選択するように求められます。

WebSphere Messaging Engine でデータベース表を作成するかどうかを指定してください:

- WebSphere Messaging Engine で自動的に表を作成する。
- Messaging Engine 表を手動で作成する。

必ず、以前のインストールで選択したオプションを選択してください。

Integrated Solutions Console を使用した WebSphere Partner Gateway レシーバー・ポートの変更

WebSphere Partner Gateway ではレシーバー・ポート番号を変更できます。

WebSphere Partner Gateway でポート番号を変更する手順は、以下のとおりです。

1. WebSphere Partner Gateway サーバーの WebSphere Application Server 管理コンソールにアクセスします。デフォルトの場合のアドレスは以下のとおりです。
 - シンプル・モード: `http://hostname.domain:58090/ibm/console`。
 - シンプル配布モード: `http://dmgr-host.domain:55090/ibm/console`。
2. 「ログイン」をクリックします。

注: パスワードがなくてもログインできます。

3. コンソールの左側にある「サーバー」ナビゲーション項目をクリックします。
4. 「アプリケーション・サーバー」リンクをクリックします。
5. レシーバー・アプリケーションをホストするサーバーのリンクをクリックします。
6. 「コンテナ設定」で「Web コンテナ設定」を展開し、「Web コンテナ・トランスポート・チェーン」をクリックします。
7. 「新規」をクリックします。

注: 新規トランスポート・チェーンを作成するときに ISC からエラーが出された場合は、実行中のデスクトップ・ファイアウォールをすべてシャットダウンし、ブラウザ・セッションを終了した後、この手順を最初から行ってください。

8. 「トランスポート・チェーン名」フィールドに名前を入力します (例: レシーバー)。
9. 「次へ」をクリックして先へ進みます。
10. ポート番号構成に名前を入力します (例: bcgreceiver)。
11. 「ホスト」フィールドはデフォルト値のままスキップします。
12. WebSphere Partner Gateway レシーバーの任意のポート番号を入力します (例えば、57080)。
13. 「次へ」をクリックします。
14. 「終了」をクリックします。

注: SSL を使用する場合は、ステップ 7 から 14 を繰り返します。名前は固有のものを使用してください (ステップ 8 で ReceiverSecure、ステップ 10 で BCGReceiverSSL を使用するなど)。ステップ 8 の後は「トランスポート・チェーン・テンプレート」ドロップダウン・リストから「WebContainer-Secure」を選択し、ステップ 12 では任意の SSL ポート番号 (57443 など) を使用します。

15. 「メッセージ」ボックスに新規ポート BCGReceiver が作成されたことが表示されたら、「保存」をクリックします。

16. コンソールの横にある環境ナビゲーションを展開します。
17. 「環境」の下にある「仮想ホスト」リンクをクリックします。
18. 「新規」をクリックします。
19. 新規仮想ホストの名前 (receiver_host など) を入力し、「OK」をクリックします。
20. 「メッセージ」ボックスに変更が行われたことが表示されたら、「保存」をクリックします。
21. 新しい **receiver_host** 仮想ホスト・リスト項目をクリックします。
22. 「追加プロパティ」という見出しの下にある「ホスト別名」リンクをクリックします。
23. 「新規」をクリックします。
24. 「ホスト名」フィールドはデフォルト値のままにしておきます。
25. 「ポート」フィールドに、トランスポート・チェーンの作成に使用したポート番号を入力します。

注: SSL を使用する場合は、ステップ 25 から 27 を繰り返し、先ほど指定した SSL ポート (57443 など) を入力します。

26. 「OK」をクリックします。
27. 「メッセージ」ボックスに変更が行われたことが表示されたら、「保存」をクリックします。
28. コンソールの横にある「アプリケーション」ナビゲーション項目をクリックします。
29. 「アプリケーション」の下にある「エンタープライズ・アプリケーション」リンクをクリックします。
30. 「エンタープライズ・アプリケーション」リストで **BCGReceiver** リスト項目のリンクをクリックします。
31. 「Web モジュール・プロパティ」の下にある「仮想ホスト」リンクをクリックします。
32. **Web/bcgReceiver.war** Web モジュールの場合は、ドロップダウン・リスト・ボックスをクリックし、先ほど作成した仮想ホスト (receiver_host など) を選択します。
33. 「OK」をクリックします。
34. 「メッセージ」ボックスに変更が行われたことが表示されたら、「保存」をクリックします。
35. WebSphere Application Server 管理コンソールからログアウトします。
36. WebSphere Partner Gateway サーバーを停止して再始動します。

注: インストール中にインストーラーがホスト名を解決できず、ホスト名の解決時に `UnknownHostException` が生成される場合は、<http://www-1.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21249227> を参照してください。

WebSphere Application Server 通知メッセージ

WebSphere Partner Gateway システム出力ログにエラーとして記録される WebSphere Application Server メッセージの中には、実際には WebSphere Partner Gateway の問題を示していない単なる通知メッセージも含まれます。

追加の WebSphere 製品リソース

- WebSphere テクノロジーおよび実装の最新の傾向を把握し、技術に焦点を絞ったブリーフィング、ウェブ・キャスト、およびポッド・キャストに参加するには、下記のサイトにアクセスしてください。 <http://www.ibm.com/developerworks/websphere/community/>
- これから行われるその他のウェブ・キャスト、会議、およびイベントについては、下記のサイトにアクセスしてください。 http://www.ibm.com/software/websphere/events_1.html
- Global WebSphere User Group Community に参加するには、下記のサイトにアクセスしてください。 <http://www.websphere.org>
- 主要製品のデモおよびチュートリアルを利用するには、下記の IBM Education Assistant サイトにアクセスしてください。 <http://ibm.com/software/info/education/assistant>
- 問題を電子送信するための Electronic Service Request (ESR) ツールについて学ぶには、下記のサイトにアクセスしてください。 http://www.ibm.com/software/support/viewlet/probsub/ESR_Overview_viewlet_swf.html
- 技術サポート E メールを毎週受信するように登録してください。

第 11 章 サーバー・ログ・ファイル

メッセージ: メッセージ項目は、エンド・ユーザー、システム管理者、およびサポート担当員に表示することを目的とした通知レコードです。

トレース: トレース項目は、サービス・エンジニアまたは開発者が使用することを目的とした情報レコードです。

エンド・ユーザー向けのメッセージは、WebSphere Partner Gateway でイベントとしてログに記録されます。

トレース・メッセージは、単独でトレース・ファイルに書き込まれます。WebSphere Partner Gateway アプリケーションには多数のトレース・メッセージが備えられており、それらを使用してシステムの動作に関する詳細情報を取得できます。

WebSphere Application Server コンソールを使用して、次の 2 つの基準に基づいてトレース・メッセージをフィルタリングします。

- メッセージの重大度
- メッセージの送信元

トレース・ファイルの名前、トレース・ファイルの形式、トレース・ファイルの管理方法、およびトレース・ファイルに書き込まれるメッセージのタイプを指定して、WebSphere Application Server を構成できます。各 WebSphere Partner Gateway アプリケーションには、これらの構成値に対応するデフォルトの設定値があります。

ログ・ファイル管理

ログ・ファイル SystemOut.log と SystemErr.log は、アプリケーションが配置されているワークステーションの以下のパスの下に格納されます。

< WebSphere Partner Gateway のインストール・ディレクトリー
>/wasND/profiles/<><profile-name> >/logs/<server-name>

WebSphere Partner Gateway システムは、シンプル・モードまたは配布モードを使用してインストールできます。シンプル・モードのシステムの場合、WebSphere Application Server 管理コンソールは、`http://<server-address >>:58090/admin` を参照すると表示されます。<server-address > は、システムがインストールされているワークステーションです。Port 58090 はインストーラーが使用するデフォルト・ポートです。ただし、インストール時にデフォルト・ポートを使用しなかった場合は、このポートとは異なります。

配布モードのシステムの場合、デプロイメント・マネージャー用の WebSphere Application Server 管理コンソールは、`http://<deployment-mgr-address> >/55090/admin` を参照すると表示されます。ポート 55090 は、インストーラーが使

用するデフォルト値です。ただし、インストール時にデフォルト・ポートを使用しなかった場合は、このポートとは異なります。

すべての WebSphere Partner Gateway アプリケーションが server1 に配置されるため、すべてのトレース・メッセージが同じトレース・ファイルに書き込まれます。

トレース・ファイルは、<WebSphere Partner Gateway インストール・ディレクトリー>/wasND/profiles/<profile-name >>/logs/ <server-name> のデフォルト・ディレクトリーに置かれます。これは、ログ・ファイルがデフォルトで書き込まれる場所と同じです。

以下の表は、各インストール・モードで作成されるログ・ファイルのスナップショットを示しています。

表 2. 各インストール・モードで作成されるログ・ファイル

インストール・モード	ログ・ファイル	詳細
シンプル	bcgServer.log	実行時に WebSphere Partner Gateway コンポーネントが生成したエラー、警告、および情報メッセージを含むすべてのメッセージが含まれています。WebSphere Partner Gateway コンポーネントの稼動中は継続的に更新されます。
シンプル配布	bcgServer.log	実行時に WebSphere Partner Gateway コンポーネントが生成したエラー、警告、および情報メッセージを含むすべてのメッセージが含まれています。WebSphere Partner Gateway コンポーネントの稼動中は継続的に更新されます。
完全配布	bcgReceiver.log	実行時に WebSphere Partner Gateway Receiver が生成したエラー、警告、および情報メッセージを含むすべてのメッセージが含まれています。WebSphere Partner Gateway Receiver の稼動中は継続的に更新されます。
完全配布	bcgConsole.log	実行時に WebSphere Partner Gateway Console が生成したエラー、警告、および情報メッセージを含むすべてのメッセージが含まれています。WebSphere Partner Gateway Console の稼動中は継続的に更新されます。

表 2. 各インストール・モードで作成されるログ・ファイル (続き)

インストール・モード	ログ・ファイル	詳細
完全配布	bcgDocMgr.log	実行時に WebSphere Partner Gateway DocMgr が生成したエラー、警告、および情報メッセージを含むすべてのメッセージが含まれています。 WebSphere Partner Gateway DocMgr の稼動中は継続的に更新されます。

ロギング

インストール・ログ・ファイルのロケーション

WebSphere Partner Gateway には、インストール・ロギングとランタイム・ロギングという 2 種類のロギングがあります。WebSphere Partner Gateway では、Log4J API ではなく、WebSphere Application Server でサポートされるロギング API が使用されます。ロギングの構成は、WebSphere Application Server 管理コンソールを使用して行います。

以下の表は、インストール・ログ・ファイルのロケーションを示しています。これらは、インストール時に生成されるファイルです。これらのファイルは、WebSphere Partner Gateway サーバーを始動したときのランタイム・ログ・ファイルとは別々のものです。インストールが失敗した場合は、最終的なインストール・ファイルのほかに、一時ファイルを確認してください。一時ファイルは、最終的なログ・ファイルの前に作成されるので、問題が記録されている場合があります。ログはファイルに追加されます。インストールするたびに新しいファイルが作成されるものではありません。アプリケーションのインストール・ログ・ファイルとメッセージング・データベースのインストール・ログ・ファイルは、一時的なロケーションでのみ提供されます。これらのファイルは、どの最終的なディレクトリーにもコピーされません。

コンポーネント	一時的な (インストール時の) ログ・ファイルのロケーション
DBLoader	<System-temp>%bcgloader%logs。 Windows の場合、System-temp は、C:%Documents and Settings%<user>%Local Settings%Temp% です
WebSphere Partner Gateway Hub (コンソール、レシーバー、文書マネージャー) およびメッセージング・アプリケーション・サーバー	System-temp%bcghub%logs
ハブ (シンプル・モード)	最終的なログ・ファイルのロケーション
インストール時のサーバー・アクティビティとすべてのインストール・アクティビティ (ノードの追加、プロファイルの作成など)	<WebSphere Partner Gateway_HUB_HOME>%wasND%Profiles%bcgprofile%logs%server1
ハブ (配布モード)	最終的なログ・ファイルのロケーション

コンポーネント	一時的な (インストール時の) ログ・ファイルのロケーション
コンソール	<WebSphere Partner Gateway_HUB_HOME>¥wasND¥Profiles¥<profile-name>¥logs¥bcgconsole
レシーバー	<WebSphere Partner Gateway_HUB_HOME>>¥wasND¥Profiles¥profile-name¥logs¥bcgreceiver
文書マネージャー	<WebSphere Partner Gateway_HUB_HOME>¥wasND¥Profiles¥<profile-name>¥logs¥bcgdocmgr
メッセージング・アプリケーション・サーバー	<WebSphere Partner Gateway_HUB_HOME>>¥wasND¥Profiles¥<profile-name>¥logs¥bcgmas

WebSphere Partner Gateway v6.1 および v6.2

<WebSphere Partner Gateway_INSTALL_DIR>¥wasND¥profiles¥<profile-name>¥logs¥<server-name>

WebSphere Partner Gateway v6.0 (比較)

コンソールの場合:

<WebSphere Partner Gateway_INSTALL_DIR>¥was¥profiles¥bcgconsole¥logs¥bcgconsole

文書マネージャーの場合:

<WebSphere Partner Gateway_INSTALL_DIR>
¥was¥profiles¥bcgdocmgr¥logs¥bcgdocmgr

レシーバーの場合:

<WebSphere Partner Gateway_INSTALL_DIR>¥was¥profiles¥bcgreceiver¥logs¥bcgreceiver

ログ・ファイルの管理

ログ・ファイルのプロパティは、WebSphere Application Server の管理コンソールから管理できます。

- 「ログおよびトレース」-> <サーバー名> -> 「JVM ログ」へとナビゲートします。
- 「構成」タブには、以下のようなプロパティがあります。
 - ファイル名
 - ファイル・フォーマット
 - 基本
 - 拡張

- ファイル・サイズ
- 時間
- 維持するヒストリー・ファイルの数

管理コンソール:「構成」タブでは、ログ・ファイルの名前、ログ・メッセージの形式、ファイル・サイズ、および維持するヒストリー・ログ・ファイルの数を指定できます。「構成」タブでプロパティを変更した場合、その変更内容は、次回サーバーを始動したときに反映されます。

v6.0 から v6.2 へのログ・レベルのマッピング

WebSphere Partner Gateway v6.0 では、WebSphere Application Server のログ・レベルに関連していないログ・レベルが使用されていました。WebSphere Partner Gateway V6.1 では、WebSphere Application Server のログ・レベルが使用されているため、この表を使用して V6.0 のログ・レベルを V6.1 の該当するレベルにマップできます。

1. WebSphere Partner Gateway V6.0

- ログ・メッセージは、WebSphere Partner Gateway で使用される重大度レベルを使用して分類されます。

2. WebSphere Partner Gateway V6.1 および V6.2

- WebSphere Application Server の重大度レベルが使用されます。

WebSphere Partner Gateway V6.0 の重大度レベル	WebSphere Application Server V6.1 の重大度レベル
FATAL	FATAL
ERROR	SEVERE
WARN	WARNING
INFO	INFO
DEBUG	FINEST

最も詳細なレベルのロギングを変更する手順については、68 ページの『WebSphere Partner Gateway ロギングの制御』を参照してください。

ログの読み取りに関するヒントの概説

- ログの形式:

```
[9/19/07 8:45:23:585 UTC] 000000b7 E UOW=null
source=com.ibm.bcg.util.DocumentProcessingImpl
class=com.ibm.bcg.util.DocumentProcessingImpl method=uniqueVUID org=IBM
prod=BCG component=WebSphere Partner GatewayCommon thread=[Thread-72] unable
to create the unique filejava.io.IOException: The file access permissions do not allow
the specified action.
```

- エラーが発生した時刻 (タイム・スタンプ) に特に注意してください。
- ログには、理解しにくいモジュール名やコードがいくつか含まれています。そのため、問題を理解するのに役立つフィールド、例えば、MsgType、Thread id、Class、Method、Component、Message を探してください。

- 既知の問題の選択リスト。

WebSphere Partner Gateway の場合、証明書は暗号化、署名、および SSL で使用されます。セキュリティー機能に CA が署名した証明書を使用する場合は、チェーン内の各証明書を WebSphere Partner Gateway にアップロードする必要があります。これは、CertPath を正常にビルドするためです。

Cert チェーン全体をアップロードしない場合は、これによって CertPath ビルド・エラーが発生します。全体の Certpath をビルドする機能を無効にするには、プロパティー `bcg.build_complete_certpath` に `false` を設定します。この値を指定すると、ユーザーがロードする必要があるのは、リーフと直接の発行者証明書のみになります。直接の発行者までのみの CertPath がビルドされます。

WebSphere Application Server のイベントのタイプ

1 文字フィールドは、メッセージまたはトレース・イベントのタイプを示します。メッセージ・タイプは大文字です。次の値が使用されます。

値	メッセージ
F	重大なメッセージ
E	エラー・メッセージ
W	警告メッセージ
A	監査メッセージ
I	通知メッセージ
C	構成メッセージ
D	詳細メッセージ
O	ユーザー・アプリケーションまたは内部コンポーネントによって SystemOut.log に直接書き込まれたメッセージ。
R	ユーザー・アプリケーションまたは内部コンポーネントによって SystemErr.log に直接書き込まれたメッセージ。
Z	タイプが認識されなかったことを示すプレースホルダー。

統合 FTP サーバー・ロギング ここでは、FTP サーバーのアクションの成功と失敗を知らせるイベント・メッセージの統合が記述されます。WebSphere Partner Gateway のパートナーが WebSphere Partner Gateway の統合 FTP サーバーに文書を送信しようとするとき、統合 FTP サーバーはクライアント接続を通知するイベントを作成します。適切な接続イベント・メッセージは、FTP サーバー応答コードの検査後、WebSphere Partner Gateway データベースに記録されます。

成功イベントと失敗イベントの統合

接続の確立、ユーザーのログイン、ファイルのアップロード、ファイルのダウンロード、および切断などのさまざまなアクションに対して FTP サーバーが作成したイベント・メッセージは、イベントとして WebSphere Partner Gateway のデータベースに記録されます。これらのイベントは、WebSphere Partner Gateway のコンソールから、既存のイベント・ビューアーを使用して表示することができます。接続イベントには、以下の応答コードが可能です。

値	メッセージ
220	新規ユーザーへのサービスの準備ができました。
530	その IP からのサーバー・アクセス権限はありません。
530	サーバー接続が最大数に達しました。接続の確立後、ユーザー情報が認証されます。ユーザー認証後、FTP サーバーはクライアントのログインを通知するイベントを作成します。適切なログイン・イベント・メッセージは、WebSphere Partner Gateway データベースに記録されます。

ユーザー認証には、以下の応答コードが可能です。

値	メッセージ
501	パラメーターまたは引数の構文エラーがあります。
503	最初に USER でログインしてください。
202	既にログインしています。
21	匿名ログインが最大数に達しました。
421	ログインが最大数に達しました。
230	ユーザーがログインしました。続行してください。

ユーザーのログインが成功すると、WebSphere Partner Gateway の FTP 送信側は、文書を FTP サーバーに置こうとします。ファイルのアップロードが完了すると、FTP サーバーはアップロードの終了を通知するイベントを作成します。アップロード開始イベントには、以下の応答コードが可能です。

値	メッセージ
150	ファイル状況は良好であり、データ接続を開くところです。
226	転送が完了しました。
550	無効なパスです。
550	アクセス権が拒否されました。
425	データ接続を開くことができません。

値	メッセージ
426	データ接続のエラーです。
551	551 出力ファイルのエラーです。FTP ロケーションへの文書のアップロードが成功すると、

FTP 接続は切断されます。FTP サーバーは切断を通知するイベントを作成します。このイベントは WebSphere Partner Gateway データベースに記録されます。

第 12 章 フィックスの入手

このタスクについて

以下のステップを実行して、フィックスを取得できます。

1. フィックスを取得するために必要なツールを入手します。
2. 必要なフィックスを判別します。
3. フィックスをダウンロードします。ダウンロードした文書を開き、「Download package」セクションのリンクをクリックします。
4. フィックスを適用します。ダウンロードした文書の「Installation Instructions」セクションの指示に従います。

サイズが 2 GB を超えるインバウンドおよびアウトバウンド ebXML メッセージの送信エラー

サイズが 2 GB を超える ebXML メッセージを送信すると、WebSphere Partner Gateway はメモリー不足の例外を生成します。サイズが 2 GB を超える ebXML メッセージは WebSphere Partner Gateway でサポートされないため、これは制限事項となります。この問題は、JavaMail™ 1.4 またはそれより前のバージョンを使用していることが原因です。FileOutputStream を渡す (MimeMultipart.writeTo() メソッドを使用する) ことにより Mime Multipart メッセージが作成される場合、Mime Multipart API はメッセージのサイズを整数で計算します。したがって、メッセージのサイズが 2 GB を超える場合、API は、定義されたデータ型に対して値が大きすぎるという内容の IOException を生成します。

WebSphere Partner Gateway が、すぐに使用可能な PIDX をサポートしない

顧客が pidx 送り状ファイルを送信しようとして、このファイルを Rosettanet 形式に変換するときに、RNPackager MIME 構文解析エラー BCG240009 が表示されます。これは、サポートされるタスクではありません。WebSphere Partner Gateway では、すぐに使用可能な PIDX がサポートされておらず、変換マップ、PIP、およびユーザー出口を作成する必要があります。顧客は、変換マップ、PIP、およびユーザー出口を作成する必要があります。

WebSphere Partner Gateway のプロパティ bcg.messagestore.threshold

文書によっては、文書ビューアーに「メッセージが格納されていません」アイコンが表示される場合があります。この問題は、大きな文書で発生します。

文書のデフォルト・サイズは 100000 バイトであるので、この値を超えるすべての文書は、メッセージ・ストアに保管されません。

WebSphere Partner Gateway コンソールの「システム管理」>「共通プロパティ」ページに `bcg.messagestore.threshold` プロパティがあります。このプロパティを使用すると、メッセージ・ストアに保管できる文書の最大サイズを指定できます。`bcg.messagestore.threshold` に指定した値を超えるサイズの文書は、メッセージ・ストアに保管されません。そのような文書に対しては、ビューアーに「メッセージが格納されていません」アイコンが表示されます。

第 13 章 知識ベースの検索

多くの場合、IBM 知識ベースを検索することで問題の解決策を見つけることができます。ここでは、提供されているリソース、サポート・ツール、および検索方式を使用して結果を最適化する方法と、自動更新を受信する方法を説明します。

提供されているテクニカル・リソース

以下のテクニカル・リソースが、質問の答えを見つけ、問題を解決するために使用できます。

WebSphere Partner Gateway インフォメーション・センター:

http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v6r2mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wpg.entadv.doc/welcome_wpg.htm

製品資料: <ftp://ftp.software.ibm.com/software/websphere/integration/wspartnergateway/library/doc/wpg62/docs/>

技術情報: <http://www-01.ibm.com/support/search.wss?tc=SSDKKW+SSDKJ8+SSDKJ8&rs=2311&q1=6.2.0&rank=8&dc=DB520+D800+D900+DA900+DA800+DB560&dtm>

IBM Educational Assistant: <http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/ieduasst/v1r1m0/index.jsp>

WebSphere Partner Gateway 製品 Web サイト: <http://www-01.ibm.com/software/integration/wspartnergateway/>

サポート・ツールを使用した検索

IBM 知識ベースを検索するのに役立つツールとして、以下のものが提供されています。これらのツールを使用すると、製品知識や最新のコード・レベルを取得したり、既知の問題および使用法のヒントを調査したり、問題を診断したりできます。豊富な問題判別ツール群を以下に示します。

豊富な問題判別ツール群を以下に示します。

- 技術情報/速報
- インフォメーション・センター
- フォーラム
- 修正のダウンロード
- README での APAR の検索
- IBM Education Assistant
- IBM Support Assistant プラグイン
- IBM Assist On Site
- eSupport/ESR
- 必須収集データ・コレクション
- Fix Central

検索エンジンから「IBM サポート」と入力すると、IBM サポート・サイトにアクセスできます。IBM サポート・サイトから「トラブルシューティング」を選択して、WebSphere Partner Gateway 製品を選択します。

- **WebSphere Partner Gateway サポート・ページ**は、自分自身で問題を判別するための最も重要なページの一つです。
- WebSphere Partner Gateway に関するさまざまな発表 (広範囲な問題と Web キャストを含む) を受信するには、**速報**をモニターします。
- (WebSphere Partner Gateway 開発がモニターする) **フォーラム**を通じて、他の WebSphere Partner Gateway ユーザーと知識を交換します。
- 既知の問題に対するヒントと解答を**技術情報**で検索します。
- **IBM Support Assistant** – 問題解決に役立つツール。
- 最新のコード・レベルにするための**フィックスパック**とその README をダウンロードします。
- **インフォメーション・センター**は、製品資料です。
- **IBM Education Assistant** は、無料のオンライン研修を集めたものです。
- **ESR** - 問題を報告します (電子サポート)。

これらのツールのより詳しい情報を以下に示します。

- **フォーラム** - フォーラムを通じて他の WebSphere Partner Gateway ユーザーと知識を交換します。このフォーラムは、WebSphere Partner Gateway 開発 (http://www.ibm.com/developerworks/forums/dw_forum.jsp?forum=1147&cat=9) によってモニターされています。
- **速報** - WebSphere Partner Gateway に関するさまざまな発表 (広範囲な問題や Web キャスト招待を含む) を受信するには、速報をモニターします。
- **技術情報** – 既知の問題に対するヒントと解答を技術情報で検索します。
- **インフォメーション・センター** – 製品資料。
- **IBM Education Assistant** – 無料のオンライン研修を集めたものです。
- **修正のダウンロード** – フィックスパック、および問題を説明する README をダウンロードします。
- **IBM Support Assistant (ISA) プラグイン** – 問題解決に役立つツール。
- **必須収集リスト** (技術情報から) – IBM に送信するスクリーン・ショット/ログを収集している間、これらのデータが問題の診断に役立つ場合があります。
- **eSupport/ESR ツール** – 電子的な問題報告ツール。このツールの詳細な使用法は、リンク <ftp://ftp.software.ibm.com/software/websphere/techexchange/flash/esr-reply/ESR57.html> で確認できます。
- **WebSphere Technical Exchange (WSTE)** - これは、L2/L3 SME が製品の技術的な側面を顧客に提示する技術交換プログラムです。WSTE では、非常に効率的に、製品/機能に関する良質の知識を入手し、すべての疑問を明確にすることができます。
- **Assist On Site (AOS)** – IBM サポート・アナリストがユーザーの画面にアクセスして、問題の再現方法を理解できるようにするプラグイン。これは、接続コードを通じて行われます。このツールは、Linux ユーザーにネイティブ・サポートを提供するように拡張されました。また、クライアントを起動するための URL を保持し、チャット・トランスクリプトを AOS コンソール経由でエンド・ユーザ

ーに送信する機能なども備えています。AOS の機能について詳しくは、<http://ayudame.uk.ihost.com/AssistOnSite/> を参照してください。

Fix Central: これは、修正の蓄積に関する IBM の企業方針です。WebSphere Partner Gateway の使用可能なすべてのフィックスパックと個々の修正は Fix Central に置かれます。Fix Central には、他の IBM 製品のフィックスパックも置かれます。

インターネット検索エンジンから、Fix Central を入力すると、IBM サポートの Fix Central (<http://www-912.ibm.com/eserver/support/fixes/fixcentral>) にアクセスします。

検索のヒント

以下のリソースは、検索結果の最適化方法について説明しています。

- IBM Support Web サイトの検索。
- Google 検索エンジンの使用。

自動更新の受信

自動更新は、以下の方法で受信できます。

- **マイ・サポート:** 修正とその他のサポート・ニュースに関する通知を毎週 E メールで受信するには、以下のステップを実行します。
 1. IBM® ソフトウェア・サポート Web サイト (<http://www-01.ibm.com/software/integration/wspartnergateway/advanced/support/>) にアクセスします。
 2. ページの右上隅の「パーソナライズ・サポート (Personalized support)」の下にある「マイ・サポート (My support)」をクリックします。
 3. 既にマイ・サポートに登録している場合は、サインインして、次のステップに進みます。登録していない場合は、「こちらからご登録ください (Register now)」をクリックします。E メール・アドレスを IBM ID として使用して登録フォームを完成させ、「送信する」をクリックします。
 4. 「プロフィールの編集 (Edit profile)」をクリックします。
 5. 「製品の追加 (Add products)」をクリックし、製品カテゴリーを選択します (「ソフトウェア」など)。2 番目のリストが表示されます。
 6. 2 番目のリストで、製品のセグメントを選択します (「データおよび情報管理 (Data & Information Management)」など)。3 番目のリストが表示されます。
 7. 3 番目のリストで、製品のサブセグメントを選択します (「データベース」など)。該当する製品のリストが表示されます。
 8. 更新を受信する製品を選択します。
 9. 「製品の追加 (Add products)」をクリックします。
 10. 関心のある製品をすべて選択したら、「プロフィールの編集 (Edit profile)」タブで「Eメールのサブスクライブ (Subscribe to email)」をクリックします。
 11. 「これらの文書を毎週 E メールで送信してください (Please send these documents by weekly email)」を選択します。
 12. E メール・アドレスを必要に応じて更新します。

13. 「**文書リスト (Documents list)**」で、製品カテゴリーを選択します (「ソフトウェア」など)。
 14. 情報を受信する文書のタイプを選択します。
 15. 「**更新**」をクリックします。
- **RSS フィード**。RSS に関する情報 (開始手順や RSS 対応の IBM Web ページのリストなど) については、<http://www.ibm.com/software/support/rss/> にアクセスしてください。

第 14 章 IBM ソフトウェア・サポートへの連絡

IBM サポートでは、製品の問題解決のお手伝いをします。IBM サポートにアクセスするには、お客様と IBM との間に有効な IBM ソフトウェア保守契約が結ばれている必要があります。さらに、お客様が IBM に問題を送信する権限をお持ちでなければなりません。有効な保守契約のタイプについては、Software Support Handbook (<http://www14.software.ibm.com/webapp/set2/sas/f/handbook/home.html>) の『Support Portfolio』を参照してください。

IBM サポートに連絡して問題を報告するには、以下の手順を実行します。

1. 診断情報を収集します。
2. 以下のいずれかの方法で、IBM サポートへ問題の処理を依頼します。
 - IBM Support Assistant (ISA) の使用:
 - オンライン: IBM ソフトウェア・サポート・サイト (<http://www-01.ibm.com/software/integration/wspartnergateway/support/>) で「Report problems」タブをクリックします。
 - 電話: 国別の連絡先の電話番号を調べるには、IBM ソフトウェア・サポート・ハンドブックの「問い合わせ先」ページにアクセスします。
3. Software Support Handbook (<http://www-01.ibm.com/software/integration/wspartnergateway/support/>) の『Getting IBM Support』を参照してください。

送信する問題がソフトウェアの障害の場合、あるいは資料が欠落しているか誤っている場合、IBM サポートではプログラム診断依頼書 (APAR) を作成します。APAR には、問題が詳細に記述されます。可能な場合、IBM サポートでは、APAR が解決して修正が提供されるまで実施できる次善策を提案します。IBM では、解決された APAR を IBM サポート Web サイトに毎日公表しています。これにより、同一の問題に直面した他のユーザーは、同一の解決方法を利用できます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502
神奈川県大和市下鶴間1623番14号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Burlingame Laboratory Director
IBM Burlingame Laboratory
577 Airport Blvd., Suite 800
Burlingame, CA 94010
U.S.A

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。

す。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

本「プログラム」は、IBM 社およびその他の著作権により保護されています。

Copyright (c) 1995-2008

All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報は、プログラムを使用してアプリケーション・ソフトウェアを作成する際に役立ちます。一般使用プログラミング・インターフェースにより、お客様はこのプログラム・ツール・サービスを含むアプリケーション・ソフトウェアを書くことができます。ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

重要: 診断、修正、調整情報は、変更される場合がありますので、プログラミング・インターフェースとしては使用しないでください。

商標

以下は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。

IBM	DB2	IMS	MQIntegrator	Tivoli
IBM LOGO	DB2 Universal Database	Informix	MVS	WebSphere
AIX	Lotus Domino	iSeries	OS/400	z/OS
CICS	IBMLink	Lotus	Passport Advantage	
CrossWorlds	i5/OS	Lotus Notes	SupportPac	

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

WebSphere Partner Gateway Enterprise および Advanced Edition には、Eclipse Project (www.eclipse.org) により開発されたソフトウェアが含まれています。



索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アラート通知 47
暗号化された AS 文書 37
イベント
再処理 48

[カ行]

言語、複数 45

[サ行]

実施権、特許権 91

[タ行]

知的所有権 91
データの照合 45
データベース照会効率、最適化 39
特許権 91
トラブルシューティング
アラート通知 47
イベントの再処理 48
カスタム・トランスポート・タイプの定義 49
サーバーの再始動 47
データベース照会効率の最適化 39
取り消しチェック 54
長い処理時間 37
バッファ・サイズの拡張 43
ビジネス文書 48
ファイル・サイズ 0 KB 44
複数言語のデータの照合 45
文書が処理されない 40
文書ボリューム・レポート 54
別のドライブ上での作成 49
レシーバーの失敗 47
CA 証明書の有効期限切れ 54
CRL DP 54
CRL のダウンロード 49
EDI レポート 43
JMS でのデータ・バインド 52

トラブルシューティング (続き)
WebSphere Application Server ショート
カット 56
トランスポート・タイプ、カスタム 49

[ハ行]

ビジネス文書
再処理 48

[ラ行]

ライセンス交付
住所 91

A

AS 文書、暗号化 37

C

CRL DP 54

E

EDI レポート 43

J

JMS エクスポート/インポート 52

U

URI、制限 49



Printed in Japan